スポーツ庁再委託事業

令和３年度 Sport in Life 推進プロジェクト

(ターゲット横断的なスポーツ実施者の増加方策事業)

「スポーツ×SDGs で取り組む包摂的な地域づくり」

事業報告書

令和４年２月１８日

株式会社東日本放送

令和３年度 Sport in Life 推進プロジェクト
（ターゲット横断的なスポーツ実施者の増加方策事業）
「スポーツ×SDGs で取り組む包摂的な地域づくり」事業報告書
目次

１．本事業の目的 1
２．本事業の実施概要 2
（１） 本事業のターゲット 2
（２） ターゲットのスポーツ実施の阻害要因、促進要因（事業実施前の仮説） 2
（３） 本事業で期待される効果 4
３．本事業の実施内容 5
（１） 事業の実施概要 5
（２） 事業の実施結果 6
① 親子編：親子アイデアソン講座の開催 6
② シニア編：転ばぬ先の杖！まさかに備えるからだづくり講座の開催 10
③ 多世代交流編：「杜のウォークベント」の開催 13
４．本事業の実施体制 16
（１） 本事業の実施体制 16
（２） 本事業の実施スキーム 16
５．事業の実施効果（スポーツ実施頻度、実施意欲の改善効果） 17
（１） 効果検証方法 17
（２） 効果検証の結果 17
６．スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証） 21
（１） 検証結果概要 21
（２） スポーツ実施の阻害要因と実施効果 21
① スポーツ実施の阻害要因 21
② 事業の実施効果 24
７．本事業から得られた波及効果 27
（１） スポーツのチカラを使った社会課題「SDGs」の取組み 27
（２） コミュニティ強化へつながる取組み 28
８．今後の事業展開予定 31
（１） 事業継続や横展開に向けたポイント、課題 31
（２） 次年度以降の事業継続、横展開の計画 31
（３） 今後の事業展開に向けて期待される Sport in Life プロジェクトにおける取組 32
９．終わりに 33
参考資料：アンケート調査票・集計結果詳細 34
（１） 親子アイデアソン参加者アンケート調査結果 34
（２） 転ばぬ先の杖！まさかに備えるからだづくり講座参加者アンケート調査結果 47
（３） SDGs ウォークイベント参加者アンケート調査結果 56

１．本事業の目的

本事業は、スポーツ参画人口の拡大に向けて、Sport in Life コンソーシアム加盟団体が連携・協働して実施する取組みを後押しするとともに、先進事例を形成することにより、全国各地にスポーツ参画人口の拡大に向けた取組みを展開するためのモデルを創出することを目的に実施したものである。

SDGs は、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現に向けた国際目標であり、安心で強靭なまちづくりもテーマの１つである。仙台市では、東日本大震災を経て、防災環境に着目しながら包摂的な地域づくりに取り組んでいる。このような中、スポーツが持つ人を集める力や巻き込む力を活用した社会課題の解決として「スポーツ SDGs」の取組みによる効果が期待されている。

スポーツによる地域のつながりを高めるアクションは、防災環境に着目した包摂的なまちづくりにつながることから、本事業では地元テレビ局と企業が連携し、多様な世代が気軽に参加することができるスポーツを活用した地域コミュニティ活動を行う。これにより、スポーツに親しみながら地域力を高める仕組みを構築する。

２．本事業の実施概要

（１） 本事業のターゲット

本事業は、スポーツを通じた地域のつながり創出を目的としており、仙台市の全市民を対象にターゲット横断的な取り組みを行うが、中でも以下の世代を中心として実施する。

ターゲット	対象人口規模	参加対象者
子ども （幼児・小学生）	幼児　　12,560 人 小学生　62,925 人	KHB 新社屋の副都心を中心に居住する住民親子トータルで 100 人
子育て世代 （30～50 歳代）	30～59 歳　443,438 人	KHB 新社屋の副都心を中心に居住する住民親子トータルで 100 人
シニア世代 （65 歳以上）	65 歳以上　259,838 人	KHB 新社屋の副都心を中心に居住する高齢者 50 人

※人口は仙台市 HP 年齢（各歳）別住民基本台帳人口データより抜粋

（２） ターゲットのスポーツ実施の阻害要因、促進要因（事業実施前の仮説）

【ターゲットのスポーツ実施の阻害要因（仮説）】

ターゲットのスポーツ実施の阻害要因を下記のように捉え、その解決に向けて事業を構築・実施する。

図表 １　スポーツ実施の阻害要因・課題

ターゲット	スポーツ実施の阻害要因・課題
子ども （幼児･小学生）	●震災に加えコロナ禍で長期に亘り外遊び等が制限されている。 ●そのような状況下で心身の健康への影響が課題視されている。
子育て世代 （30～50 歳代）	●日頃から運動習慣が低い年代であるが、コロナ禍における外出自粛やテレワークの増大等の影響に伴い、運動不足の状況がより深刻化する傾向にある。
シニア世代 （65 歳以上）	●コロナ感染予防の外出自粛が続き身体活動・社会活動の機会が減少している。 ●そのような状況下、運動不足の深刻化やフレイルへの影響が課題視されている。

【ターゲットのスポーツ実施を促すための方策】

ターゲットのスポーツ実施を促すために以下 4 点にポイントを絞り、方策を講じる。

① <u>域資源を活用したコミュニティ拠点づくりの取組み</u>

代表団体である東日本放送は 2021 年秋に新社屋が完成したが、この地域は仙台の副都心として中心的な場所である。地域に開かれたテレビ局として、この施設が有するカフェやホールも活用しながら地域コミュニティの拠点づくりを担う役割等が期待されている。また、新社屋に隣接する「khb 東日本放送ぐりりスポーツパーク」や「ゼビオアリーナ」は、災害時の一時避難場所とされており、平時のスポーツコミュニティ活動拠点としてこの場を活用することで安心して暮らせる地域のつながりづくりにもなる。

身近な地域資源を活用したコミュニティ拠点を構築し、この場を活用した各種スポーツイベント等を実施することで、参加人数の拡大や今後の活動の継続につなげていく。

図表 2　KHB 新社屋および khb 東日本ぐりりスポーツパーク

②地域のテレビ局というメディアのチカラを活用した情報発信

スポーツ実施者の増加に向けた社会的気運の醸成や取組みの横展開を図る上で、事業内容や取組み状況を地元のメディアで情報発信をすることで、広く周知していく。

市民が情報を得る手段として認知度が高い地域メディアを活用することで、本事業の広報効果を高める。

③子どもを中心とした多世代の巻き込み

子どもと一緒の時間を持ちたい親や孫と過ごすことが楽しみな祖父母シニアが比較的多いことは、様々な調査結果データや論文からもうかがえる。本事業では子どもをフックに保護者・祖父母シニアを巻き込み、多世代へのリーチが可能な広がりのある展開を図る。

多世代が一緒に楽しめる内容の事業を実施することにより、スポーツを通じたコミュニティ活動の参加率・継続率を高める。

④防災や環境といった日常生活に密着したテーマ設定

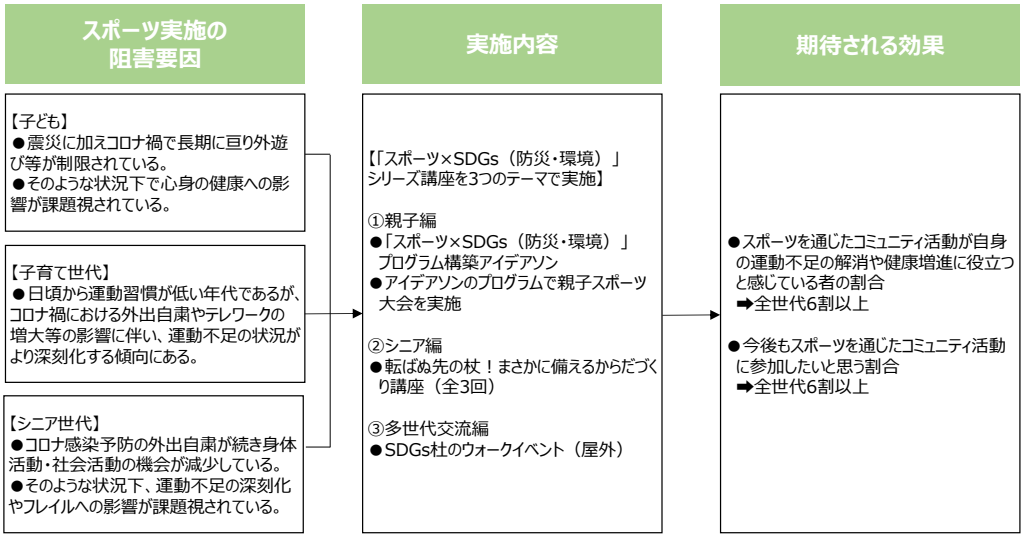
日常生活において、安心・安全で心地よく生活していくための防災や環境といったテーマは市民の関心が高く、また多様な世代が同じ目的意識をもって集いやすいものでもあり、地域コミュニティを醸成していくことにつなげやすい。

日常の生活に密着したテーマに紐づけることで、行動（スポーツ実施）の習慣化を高める。

（3） 本事業で期待される効果

本事業においては、上述したスポーツ実施の疎外要因に対し、これらの課題解決に寄与する実証事業を行うことで、次に示す事業効果を期待している。

図表 3　スポーツ実施の疎外要因に対する取組みと期待される効果



◆期待される具体的事業効果

スポーツ庁が行った世論調査（令和２年度）では、**「普段、運動不足を感じている」と回答した割合は全世代で７割**を超えている。また、「体力に自信があるか」については、**「体力に不安がある」とする割合が ５割を超え**ている。さらに、仙台市が実施した地域の福祉に関する調査（令和元年）では、「地域とのつながり」に関し、「普段からの交流は重要」と回答した割合は約２割、「日頃の交流がないと、いざというときに助け合えないので、ある程度の交流はしておいたほうがよい」と回答した割合は約４割で、**合わせて約６割の人が地域での日常的交流を必要**としている状況にあった。そこで、本事業では事業成果として以下を目指して実施をする。

図表 4　期待される具体的な事業成果

評価項目	目標値
スポーツを通じたコミュニティ活動が自身の運動不足の解消や健康増進に役立つと感じている者の割合	（全世代）６割以上
今後もスポーツを通じたコミュニティ活動に参加したいと思う割合	（全世代）６割以上

３．本事業の実施内容

（１） 事業の実施概要

SDGs は、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現に向けた国際目標であり、安心で強靭なまちづくりもテーマの１つである。仙台市では、東日本大震災を経て、防災環境に着目しながら包摂的な地域づくりに取り組んでいる。このような中、スポーツが持つ人を集める力や巻き込む力を活用した社会課題の解決として「スポーツ SDGs」の取組みによる効果が期待されている。

スポーツによる地域のつながりを高めるアクションは、防災環境に着目した包摂的なまちづくりにつながることから、本事業では地元テレビ局と企業が連携し、多様な世代が気軽に参加することができるスポーツを活用した地域コミュニティ活動を行う。これにより、スポーツに親しみながら地域力を高める仕組みを構築する。

【事業の実施対象】

本事業のメインターゲットは以下の通り。

●子ども（幼児・小学生）：khb 新社屋の副都心を中心に居住する住民

●子育て世代（30～50 歳代）：khb 新社屋の副都心を中心に居住する住民

●シニア世代（65 歳以上）：khb 新社屋の副都心を中心に居住する高齢者

【実施内容詳細】

「スポーツ×SDGs（防災・環境)」シリーズ講座を 3 つのテーマで行う。

①親子編　（全 2 回講座：親子 100 名）延べ 200 名

「スポーツ×SDGs（防災・環境)」プログラム構築アイデアソン及び

アイデアソンで考案したスポーツプログラムで親子スポーツ大会を実施（全 2 回）

②シニア編（全 3 回講座：50 人）延べ 150 名

転ばぬ先の杖！まさかに備えるからだづくり講座（全 3 回）

③多世代交流編（1 回：多世代 200 人）

SDGs 杜のウォークイベント（屋外編）

（2） 事業の実施結果

① 親子編：親子アイデアソン講座の開催

名称等	スポーツ×SDGs アイデアソン
実施期日	2021 年 10 月 31 日（日）、11 月 6 日（土）（全 2 回　開催）
実施場所	東日本放送新社屋多目的スペース
実施対象	①子ども（小学生中心）、②子育て世代（20～50 代）　親子
実施内容	「スポーツ×SDGs」をテーマにした競技スポーツを親子アイデアソンより考案するとともに、これらの考案したスポーツでのスポーツ大会を実施した。 **【第 1 回】** 実施日時：2021 年 10 月 31 日（日）14：00～16：00 次第：①SDGs 講義 SDGs の内容理解のためのミニ講義を実施した。 ②親子アイデアソンワークショップ 「スポーツ×SDGs」をテーマにしたアイデアソンワークショップを行い、コミュニティ活動として継続的に実施ができるスポーツを考案した。 ③アンケート調査 事業の効果検証に活用するアンケート調査を実施した。 考案スポーツ： 仙台すずめ踊り×SDGs カルタ（スポーツ競技） 地域住民が親しみやすい江戸時代から続く仙台のすずめ踊りと SDGs を組み合わせたスポーツを考案した。 **【第 2 回】** 実施日時：2021 年 11 月 6 日（土）14：00～16：00 次第：①仙台すずめ踊り×SDGs カルタ競技の実施 第 1 回目に考案した仙台すずめ踊り×SDGs カルタ競技を、参加者を 3 チームに編成して実施した。 ②仙台すずめ踊りのライブパフォーマンスと参加者によるすずめ踊り 仙台すずめ踊り連盟のメンバーの協力ももと、ライブパフォーマンスを行った。また、講座参加者と連盟のメンバーが一緒に仙台すずめ踊りを踊った。 ③アンケート調査 事業の効果検証に活用するアンケート調査を実施した。 【フォローアップ活動】 ・参加者への他 SIL イベント（シニア編・多世代編）の参加案内をメ

	ール及び電話で展開した。 ・自社制作番組内での「Sport in Life」推進プロジェクトの紹介及びイベントの実施報告を行い、県内の視聴者に SIL 事業の取り組みを発信した。
アンケート調査概要	■内容：運動・スポーツの実施状況、充足度、コロナ禍での影響度、地域コミュニティ活動への参加状況、講座の満足度、今後の継続意向等 ■対象：スポーツ×SDGs アイデアソン参加の保護者 ■回収数：33 ■参加者属性 ・ 年代は 40 代が 18 名 50.0%で最も多く、次いで 30 代が 7 名 19.4%であった。 ・ 子どもの参加者の年代は小学校低学年が 14 名 42.4%で最も多く、次いで未就学児が 5 名 15.2%であった。 ※結果詳細は後述
実施結果及び考察	【事業参加者数】 目標延べ参加者数 親子 200 名（1 回 100 名×2 回） 実績数 ① 講座参加者：75 名（第 1 回：31 名　第 2 回：44 名） ②フォローアップ活動：65 名 メディアでの発信による講座内容の共有数 想定リーチ数：約 44 万名 発信実績一覧 ・突撃！ナマイキ TV（情報番組） ・もえスポ（スポーツ番組） ・チャージ！（報道番組） 【結果】 ・ 地域の文化・スポーツ活動である「すずめ踊り」もコロナ禍で活動できていない状況があり、地域の文化スポーツを交えながらのワークショップを開催し、ご当地色を活かした競技スポーツを考案。「すずめ踊りしっぽ取り」「すずめ踊り椅子取りゲーム」などのアイデアが出された。 ・ 参加者からは、幅広い世代に響く「スポーツ」をフックに、楽しくわかりやすく「SDGs」を学べるイベント内容であり、「SDGs の理解が深まった」「親子で参加できて楽しくからだを動かせた」とのアンケートで回答あり。また地域の文化スポーツであるすずめ踊りが初体験の方もいた。

	・　イベント当日、社屋周辺の地域住民にも声掛けをし、参加者を増やすために尽力したが、選挙投開票日とイベントが被ったことや悪天候の影響を受け、参加人数は目標数には届かなかった。 【考察】 ・　自分たちで考えたものを形にして体験する過程で、スポーツの楽しさや SDGs の大切さを実感してもらえたイベントになったのではないかと考える。 ・　他の参加者との交流も多くあったため、「地域の人と交流できてよかった」との声も多く、今後も地域に開かれた拠点として、コミュニティ活動を活性化させる取組みとして有効と考える。 ・　参加人数に関しては、契約時期が当初予定よりも後ろにずれたこともあり、告知期間が短くなったことも影響しているが、告知をする上で「SDGs」と聞いて少し難しいイベントだと感じてしまった方も多いのではないかと考える。今後、イベントの告知をする際は、幅広い層に響くように「簡単」で「楽しい」イベントだということを押し出して発信していきたい。

図表 5　参加者募集ちらし（3 講座共通）

図表 6　実施講座の様子

【番組露出】

2021 年 10 月 14 日 9:55～11:05 放送
「突撃！ナマイキ TV」内参加者募集告知

2021 年 11 月 7 日 16:30～17:25 放送
「もえスポ」内イベント紹介

②　シニア編：転ばぬ先の杖！まさかに備えるからだづくり講座の開催

名称等	転ばぬ先の杖！まさかに備えるからだづくり講座
実施期日	2021 年 10 月 31 日（日）、11 月 6 日（土）、11 月 21 日（日） （全 3 回　開催）
実施場所	東日本放送新社屋多目的スペース
実施対象	シニア世代（主に 65 歳以上）
実施内容	いざというときに備えるための、シニアの日頃の体力づくりやフレイル予防につながる講座を実施した。 **【第 1 回】** 実施日時：2021 年 10 月 31 日（日）10：30～12：00 次第：①アクティブスポーツのシニア向け講座_第 1 回目 うたと音楽を活用して楽しく体力づくりができるシニア向けの講座を実施した。椅子に座った状態で音楽に合わせて体を動かす動作や、参加者同士で交流しながら体を動かすなど様々な講座内容を展開した。 ②アンケート調査 事業の効果検証に活用するアンケート調査を実施した。 **【第 2 回】** 実施日時：2021 年 11 月 6 日（土）10：30～12：00 次第：①アクティブスポーツのシニア向け講座_第 2 回目 うたと音楽を活用して楽しく体力づくりができるシニア向けの講座を実施した。第一回目のアンケートで「もう少しハードなものもやってみたい」とのご意見があったので、リズムに合わせて軽快に体を動かしたり、ホール全体を使って軽運動をしたりなど、1 回目とは異なる内容を展開した。 ②アンケート調査 事業の効果検証に活用するアンケート調査を実施した。 **【第 3 回】** 実施日時：2021 年 11 月 21 日（日）10：30～12：00 次第：①アクティブスポーツのシニア向け講座_第 3 回目 うたと音楽を活用して楽しく体力づくりができるシニア向けの講座を実施した。第三回目は今までで一番ハードな講座を実施した。音楽に合わせて小道具を使いながら踊ったり、会場を歩き回ってリズムをとったりと、参加者同士の交流も自然と生まれる講座内容を展開した。 ②アンケート調査 事業の効果検証に活用するアンケート調査を実施した。
アンケート	■内容：運動・スポーツの実施状況、充足度、コロナ禍での影響度、

調査概要	地域コミュニティ活動への参加状況、講座の満足度、今後の継続意向等 ■対象：転ばぬ先の杖！まさかに備えるからだづくり講座参加者 ■回収数：101 ■参加者属性 ・　男性は 19 名 18.8%、女性は 82 名 81.2%であった。 ・　最も多い年代は 71～75 歳が 23.8%、次いで 65～70 歳が 16.8%であった。 ※結果詳細は後述

図表 7　参加者募集ちらし（3 講座共通）

図表 8　実施講座の様子

【番組露出】

2021 年 11 月 22 日 18:15～19:00　「チャージ！」内イベント紹介

③　多世代交流編：「杜のウォークベント」の開催

名称等	「杜のウォークベント」の開催
実施期日	2021 年 11 月 28 日（日）（午前、午後に分けて 2 回実施）
実施場所	ぐりりの森（宮城県利府町）
実施対象	①子ども（幼児・小学生中心）、②子育て世代（30～50 代）、③シニア世代（65 歳以上）を中心とした全地域住民
実施内容	防災・環境を学びながらウォーキングを行うアウトドアスポーツイベントを開催した。 実施日時：2021 年 11 月 28 日（日）10：30～12：00、14：00～16：00 （午前、午後に分けて 2 回実施） 次第：①杜のウォークベント ウォーキングをしながら、伐採などを経験してもらうことで、森の管理・手入れの大切さを体を動かしながら学べんでもらえる内容で実施した。また、ウォーキング途中に過去の台風の痕跡を見てもらうことで、防災・減災に関しても考えられるイベントを開催できた。 ②アンケート調査 事業の効果検証に活用するアンケート調査を実施した。
アンケート調査概要	■内容：運動・スポーツの実施状況、充足度、コロナ禍での影響度、地域コミュニティ活動への参加状況、講座の満足度、今後の継続意向等 ■対象：杜のウォークイベント参加者（大人のみ） ■回収数：55 ■参加者属性 ・　男性は 37 名 67.3%、女性は 18 名 32.7%であった。 ・　年代は 50 代が 31.5%と最も多く、次いで 40 代が 27.8%であった。 ※結果詳細は後述
実施結果及び考察	【事業参加者数】 目標延べ参加者数 200 名 実績数 57 名 メディアでの発信による講座内容の共有数 想定リーチ数：44 万名 発信実績一覧 ・突撃！ナマイキ TV（情報番組） ・もえスポ（スポーツ番組） ・チャージ！（報道番組）

【実施結果】
・自然に関する専門家のインストラクターが参加者を案内したことで、普段は気にしない「自然」についても学んでもらえた。細かい枝を切ることが、陽の光を十分に行きわたらせ、木の成長を助けることを説明し、子どもたちが実際に枝切りの体験。単に目に見える自然を堪能するだけでなく、森の管理の仕方を学ぶことにも繋がった。
・森の細かい手入れが、人の命を助けたり奪ったりすることがあるというのを、歩きながら学んでもらえた。
【考察】
・ただ説明をするのではなく、体を動かし、体験してもらいながら SDGs に繋がることを学んでもらえたので、子どもにはよりわかりやすかったのではないかと考える。まずは、身近な SDGs やスポーツに触れてもらうことが大切だと感じた。
・イベント後、「運動不足解消になった」「知らない間に没頭して普段使わない筋肉を動かせた」と話す大人や、「枝切りや木を植える体験が面白かった」と話す子どもなども多く、「Sport in Life」を定着化させるきっかけになったと考える。
・屋外でのイベントとなったが、実施が寒い時期に入る 11 月下旬となったことと、前週に雨が続いていたことから参加者数については伸び悩んだ。ファミリーが参加する屋外イベントについては、実施を検討するなど今後の課題も見えた。

図表 9　参加者募集ちらし（3 講座共通）

図表 10　イベント実施の様子

【番組露出】

2021 年 11 月 28 日 11:45～12:00 放送「khb・ANN ニュース」内イベント紹介

４．本事業の実施体制

（１） 本事業の実施体制

本事業の実施体制は下記の通り。

代表団体	株式会社東日本放送*
構成団体	株式会社東北第一興商*、特定非営利活動法人エコロジーオンライン*、株式会社第一興商*、ケイ・エイチ・ビー開発株式会社*
事業実施地域	宮城県仙台市、宮城県利府町

※ 「*」は Sport in Life コンソーシアム加盟団体

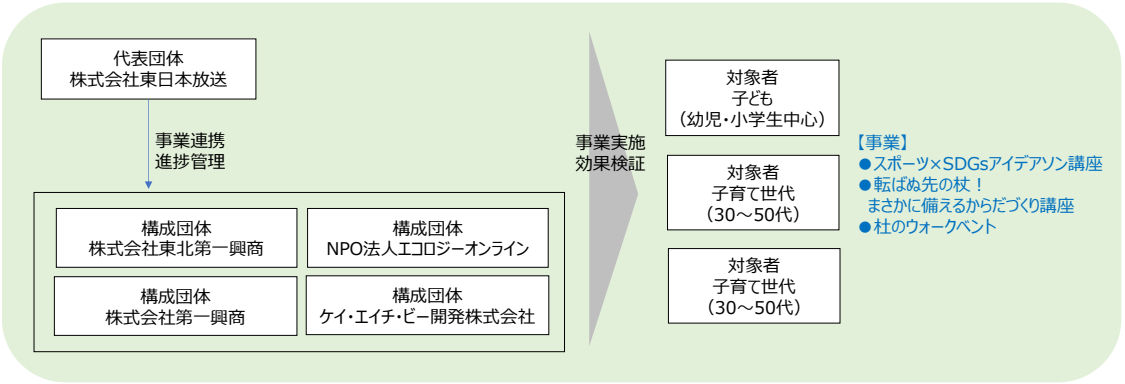
（２） 本事業の実施スキーム

本事業における代表団体、構成団体、その他参画団体の役割は下記の通り。

事業全体統括、事業管理は代表団体株式会社東日本放送が行う。

事業は、代表団体株式会社東日本放送が有するイベント企画、実施、運営等のノウハウを活用して展開していく。実なお、施運営については構成団体株式会社東北第一興商、特定非営利活動法人エコロジーオンライン、株式会社第一興商、ケイ・エイチ・ビー開発株式会社と連携を図り事業遂行をしていく。

図表 11 本事業の推進体制



５．事業の実施効果（スポーツ実施頻度、実施意欲の改善効果）

（１） 効果検証方法

本事業実施で期待される運動・スポーツへの取組み意欲向上及び、習慣化に関して、下記の方法で効果を検証した。

図表 12　期待される効果と検証方法

期待される効果	検証方法
スポーツを通じたコミュニティ活動が自身の運動不足の解消や健康増進に役立つと感じている者の割合	イベント終了後に参加者に対してアンケート調査を実施し、事業効果を検証する。 ➡6 割以上（全世代）
今後もスポーツを通じたコミュニティ活動に参加したいと思う割合	イベント終了後に参加者に対してアンケート調査を実施し、事業効果を検証する。 ➡6 割以上（全世代）

（２） 効果検証の結果

事業実施で期待される効果の検証結果は下記の通り。

①スポーツを通じたコミュニティ活動が自身の運動不足の解消や健康増進に役立つと感じている者の割合

本事業のイベント参加に対してイベント終了後にアンケート調査を実施し「スポーツを通じたコミュニティ活動が自身の運動不足の解消や健康増進に役立つと感じた」かを尋ねた。全体で「そう思う」75.1%、「ややそう思う」が 24.3%で合わせて 99.4%となり、世代別でも「そう思う」、「ややそう思う」は目標の 6 割を大幅に超える結果となった。（図表 13、14）

【親子編参加者】

「そう思う」は 66.7%、「ややそう思う」は 33.3%で、「スポーツを通じたコミュニティ活動が自身の運動不足の解消や健康増進に役立つと感じた」割合は 10 割だった。

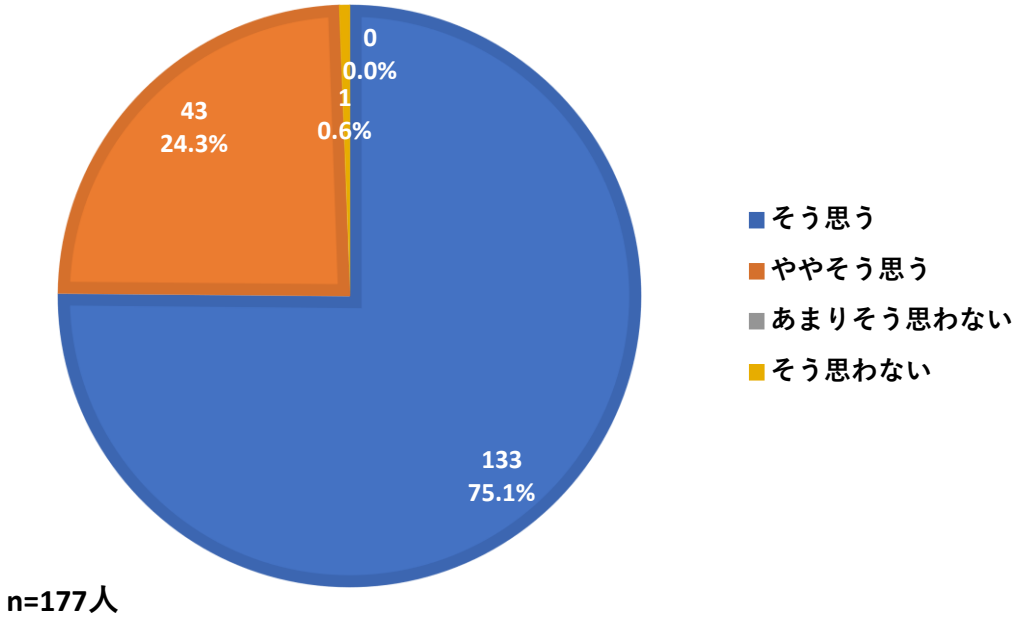
【シニア編】

「そう思う」は 80.0%、「ややそう思う」は 20.0%で、「スポーツを通じたコミュニティ活動が自身の運動不足の解消や健康増進に役立つと感じた」割合は 10 割だった。

【多世代交流編】

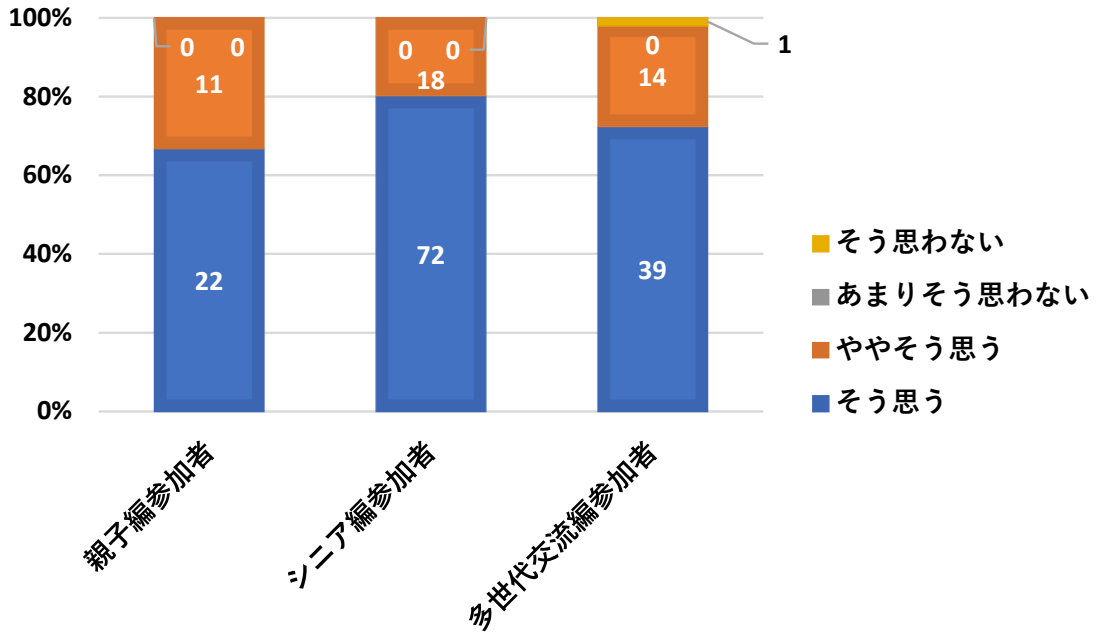
「そう思う」は 72.2%、「ややそう思う」は 25.9%で、「スポーツを通じたコミュニティ活動が自身の運動不足の解消や健康増進に役立つと感じた」割合は約 98%だった。

図表 13　「スポーツを通じたコミュニティ活動が
自身の運動不足の解消や健康増進に役立つと感じた」割合



n=177人

図表 14　講座別「スポーツを通じたコミュニティ活動が
自身の運動不足の解消や健康増進に役立つと感じた」割合（n=177 人）



②今後もスポーツを通じたコミュニティ活動に参加したいと思う割合

本事業のイベント参加に対してイベント終了後にアンケート調査を実施し「今後もスポーツを通じたコミュニティ活動に参加したいと思った」かを尋ねた。全体で「そう思う」

82.0%、「ややそう思う」が 17.4%で合わせて 99.4%となり、世代別でも目標の 6 割を大幅に超える結果となった。(図表 15、16)

【親子編参加者】

「そう思う」は 78.8%、「ややそう思う」は 21.2%で、「今後もスポーツを通じたコミュニティ活動に参加したいと思った」割合は併せて 100%であった。

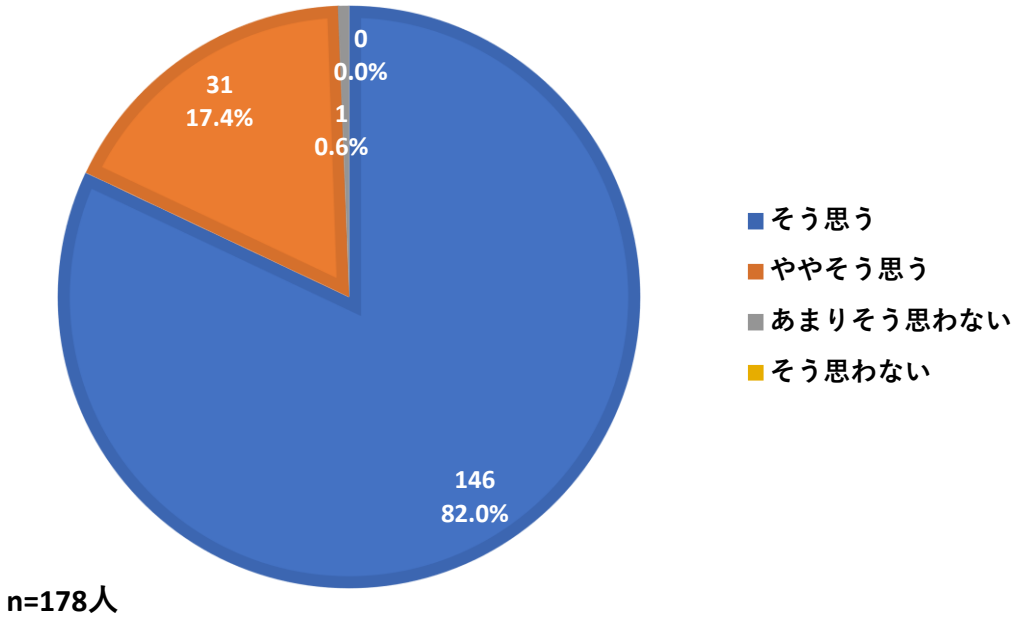
【シニア編】

「そう思う」は 84.6%、「ややそう思う」は 15.4%で、「今後もスポーツを通じたコミュニティ活動に参加したいと思った」割合は併せて 100%であった。

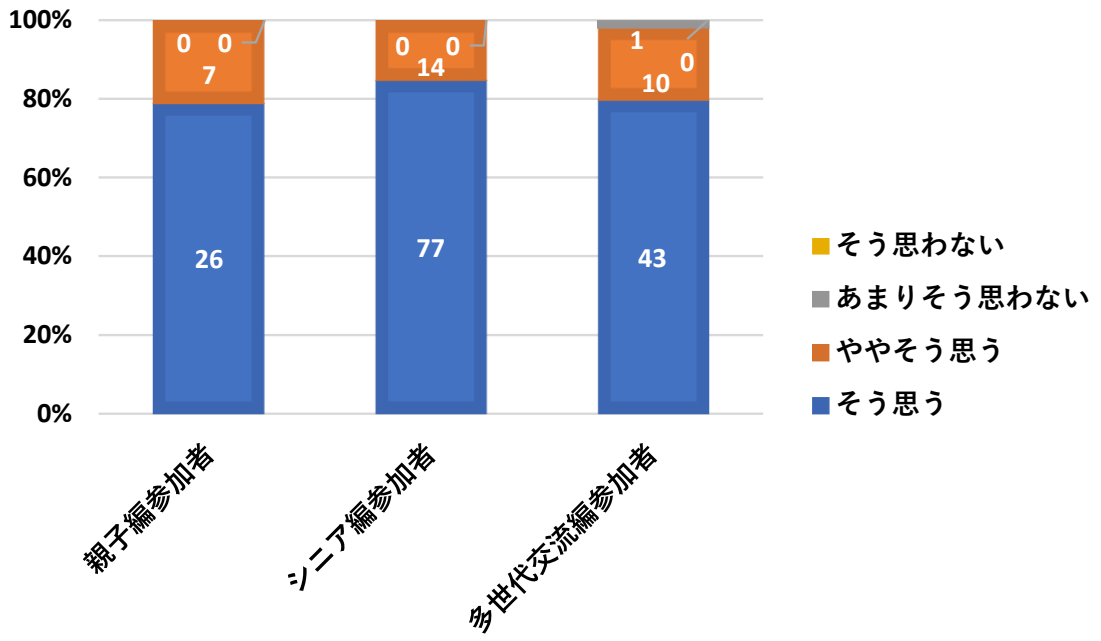
【多世代交流編】

「そう思う」は 79.6%、「ややそう思う」は 18.5%で、「今後もスポーツを通じたコミュニティ活動に参加したいと思った」割合は約 98%だった。

図表 15　「今後もスポーツを通じたコミュニティ活動に参加したいと思った」割合



図表 16　講座別「今後もスポーツを通じたコミュニティ活動に参加したいと思った」割合(n=178 人)


100%
80%
60%
40%
20%
0%
0
0
7
26
0
0
14
77
1
0
10
43
親子編参加者
シニア編参加者
多世代交流編参加者
そう思わない
あまりそう思わない
ややそう思う
そう思う

６．スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証）

（１） 検証結果概要

図表 17　取り組み内容と結果

スポーツ実施の阻害要因 （事業実施前の仮説）	取組み内容
【子ども】 震災に加えコロナ禍で長期に亘り外遊び等が制限されている。 【子育て世代】 日頃から運動習慣が低い年代であるが、コロナ禍における外出自粛やテレワークの増大等の影響に伴い、運動不足の状況がより深刻化している。 【シニア世代】コロナ感染予防の外出自粛が続き身体活動・社会活動の機会が減少している。	【事業の取組み】 【「スポーツ×SDGs（防災・環境）」 シリーズ講座を 3 つのテーマで実施】 ①親子編 「スポーツ×SDGs（防災・環境）」（全 2 回） ②シニア編 転ばぬ先の杖！まさかに備えるからだづくり講座（全 3 回） ③多世代交流編 SDGs 杜のウォークイベント（屋外）

実施効果（検証結果）
【効果検証結果】 ●スポーツを通じたコミュニティ活動が自身の運動不足の解消や健康増進に役立つと感じている者の割合（「そう思う」「ややそう思う」の合計） 目標：全世代 6 割以上➡実績：全世代 99.4%（「そう思う」75.1%、「ややそう思う」24.3%） ●今後もスポーツを通じたコミュニティ活動に参加したいと思う割合（「そう思う」「ややそう思う」合計） 目標：全世代 6 割以上➡実績：全世代 99.4%（「そう思う」82.0%、「ややそう思う」17.4%） 【事業成果】 コロナ禍において各世代の活動が制限される中、運動・スポーツの機会の減少や地域のつながりの希薄化といった課題の解決につながる事業成果を上げることができたと考える。

（２） スポーツ実施の阻害要因と実施効果

① スポーツ実施の阻害要因

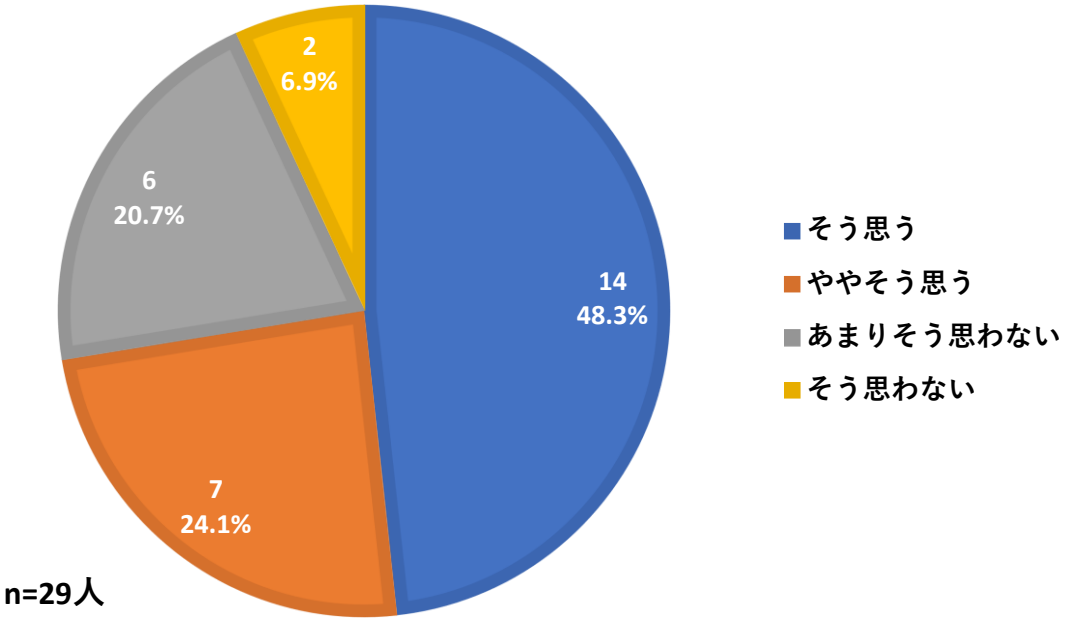
スポーツ実施の阻害要因の仮説について、アンケート調査を実施した。結果は以下の通り。

【子ども】

■ 設問：新型コロナウィルス感染症の影響で、お子さんがカラダを動かす機会や友達と遊ぶ機会が以前よりも減ったと思うか。

■ 結果：「そう思う」は 48.3%、「ややそう思う」は 24.1%で、7 割以上の保護者が新型コロナウィルス感染症の影響等で子どもがカラダを動かす機会が減少したと回答している。

図表 18　お子さんがカラダを動かす機会や友達と遊ぶ機会が以前よりも減ったと思うか

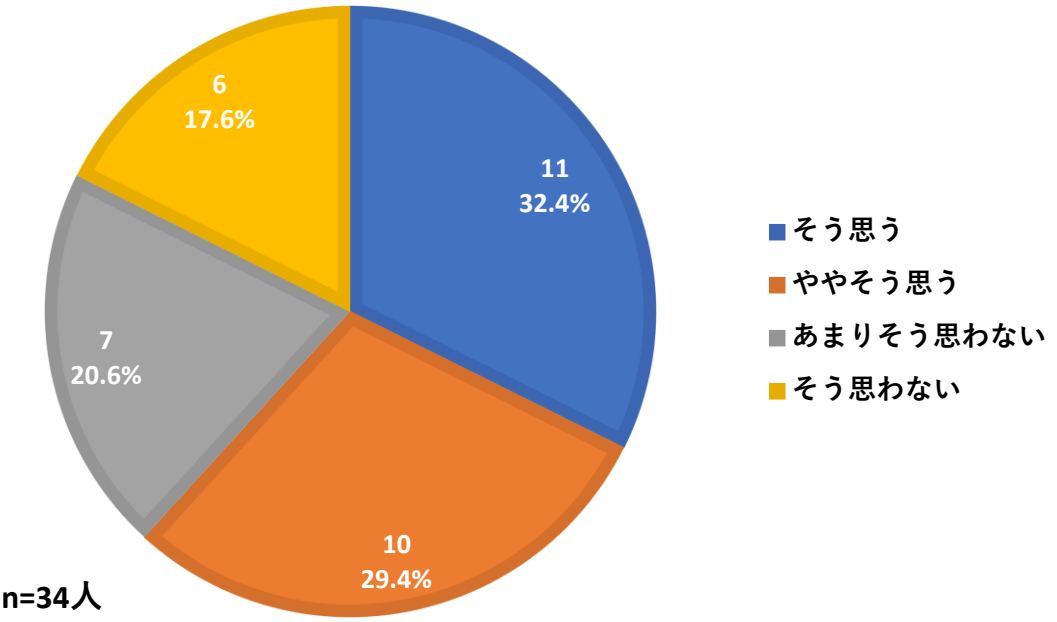


【子育て世代】

■ 設問：新型コロナウィルス感染症の影響で、カラダを動かす機会は以前よりも減っていると思うか。

■ 結果：「そう思う」は 32.4%、「ややそう思う」は 29.4%で、6 割以上が新型コロナウィルス感染症の影響等でカラダを動かす機会が減少したと回答している。

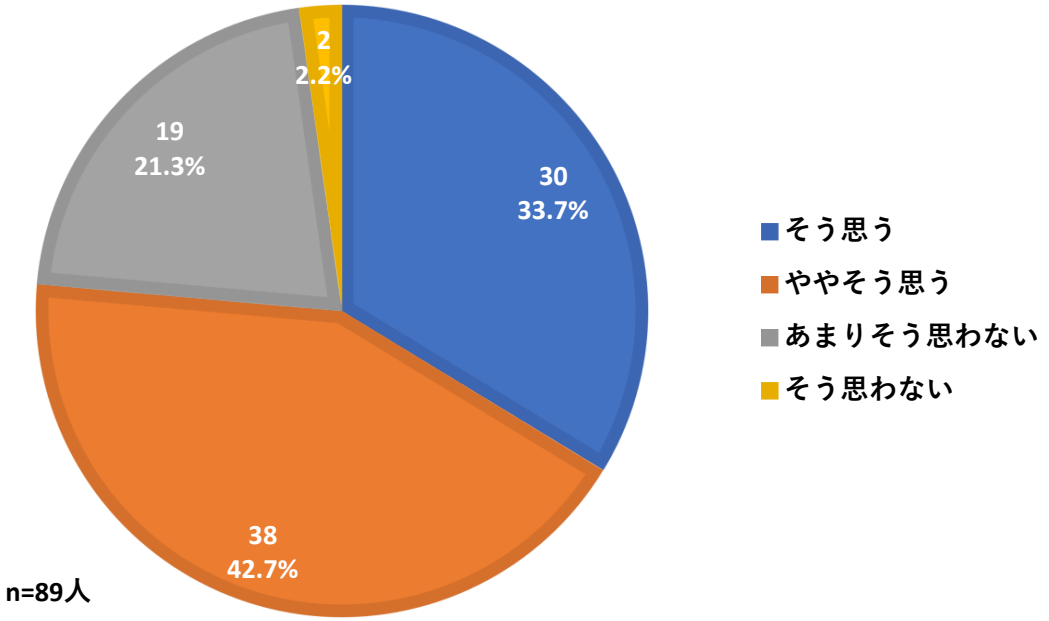
図表 19　カラダを動かす機会や友達と遊ぶ機会が以前よりも減ったと思うか



【シニア世代】

- 設問：新型コロナウィルス感染症の影響で、カラダを動かす機会は以前よりも減っていると思うか。
- 結果：「そう思う」は 33.7%、「ややそう思う」は 42.7%で、約 76%が新型コロナウィルス感染症の影響等でカラダを動かす機会が減少したと回答している。

図表 20　カラダを動かす機会や友達と遊ぶ機会が以前よりも減ったと思うか

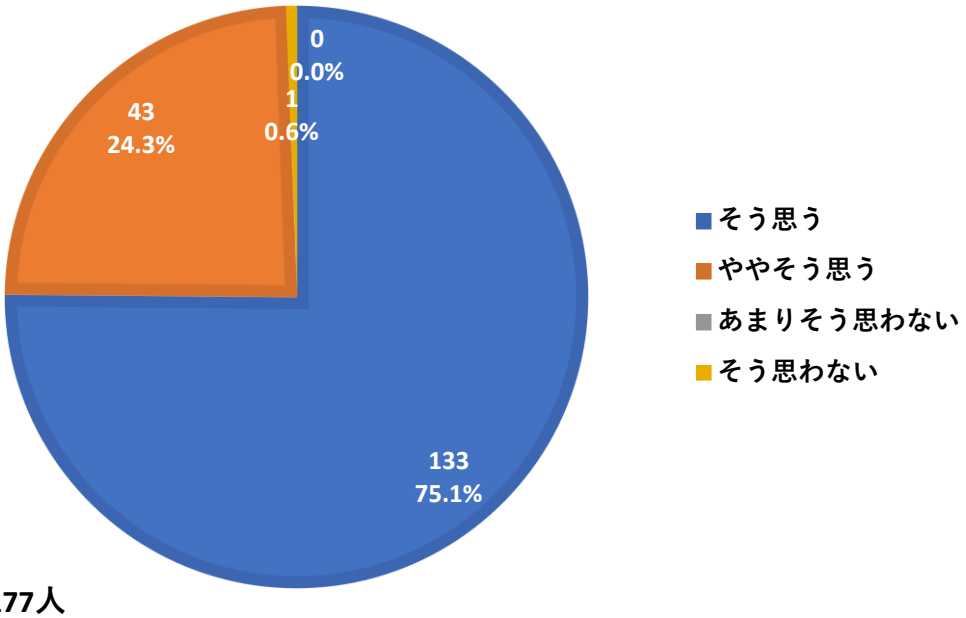


②　事業の実施効果

参加者アンケート調査より以下の事業の実施効果を検証した。結果は以下の通り。

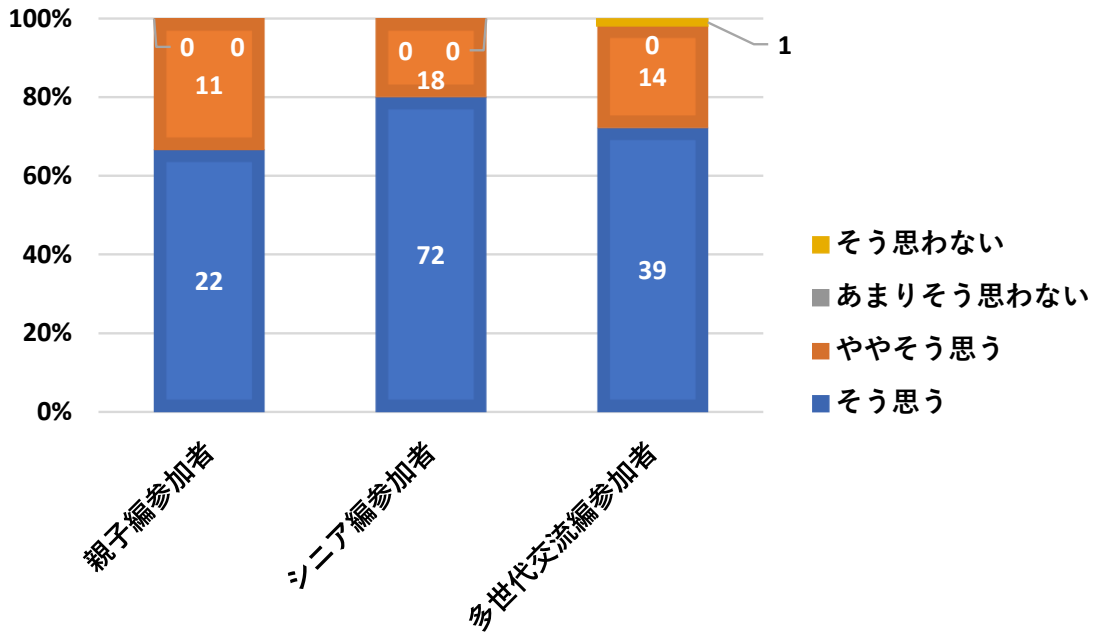
- 設問：スポーツを通じたコミュニティ活動が自身の運動不足の解消や健康増進に役立つと思うか。
- 結果：本事業のイベント参加に対してイベント終了後にアンケート調査を実施し「スポーツを通じたコミュニティ活動が自身の運動不足の解消や健康増進に役立つと感じた」かを尋ねた。全体で「そう思う」75.1%、「ややそう思う」が 24.3%で合わせて 99.4%であった。（図表 21、22）

図表 21　「スポーツを通じたコミュニティ活動が自身の運動不足の解消や健康増進に役立つと感じた」割合



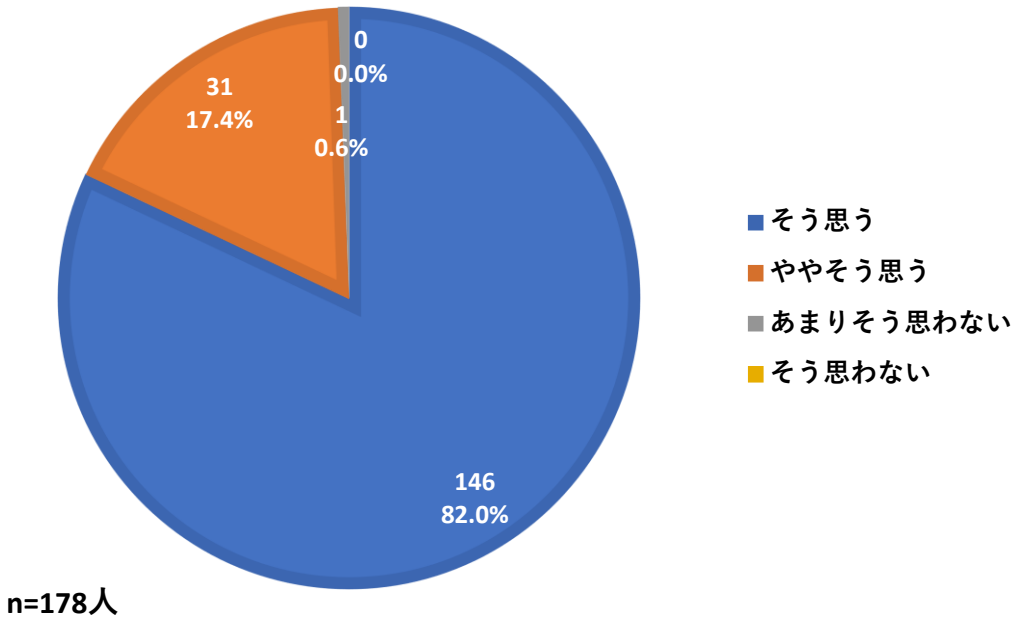
n=177人

図表 22　講座別「スポーツを通じたコミュニティ活動が自身の運動不足の解消や健康増進に役立つと感じた」割合(n=177 人)（再掲）

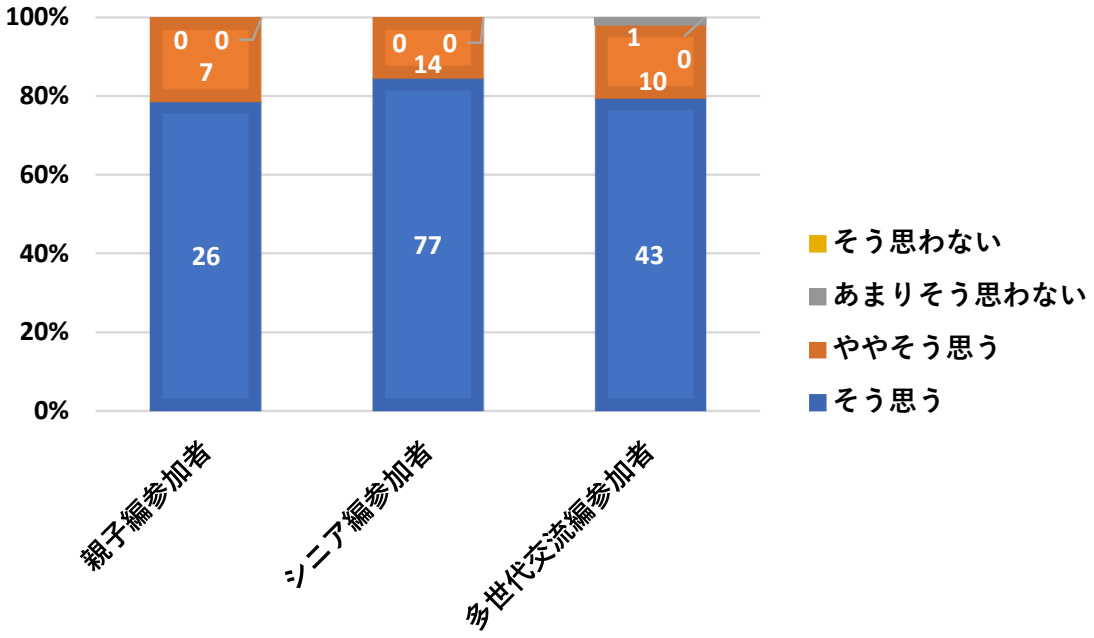


- 設問：今後もスポーツを通じたコミュニティ活動に参加したいと思うか。
- 結果：本事業のイベント参加に対してイベント終了後にアンケート調査を実施し「今後もスポーツを通じたコミュニティ活動に参加したいと思った」かを尋ねた。全体で「そう思う」82.0%、「ややそう思う」が 17.4%で合わせて 99.4%であった。（図表 23、24）

図表 23　「今後もスポーツを通じたコミュニティ活動に参加したいと思った」割合（再掲）



図表 24　講座別「今後もスポーツを通じたコミュニティ活動に参加したいと思った」割合(n=178 人)（再掲）



７．本事業から得られた波及効果

本事業を実施したことにより、下記の波及効果があったと考えられる。

（１） スポーツのチカラを使った社会課題「SDGs」の取組み

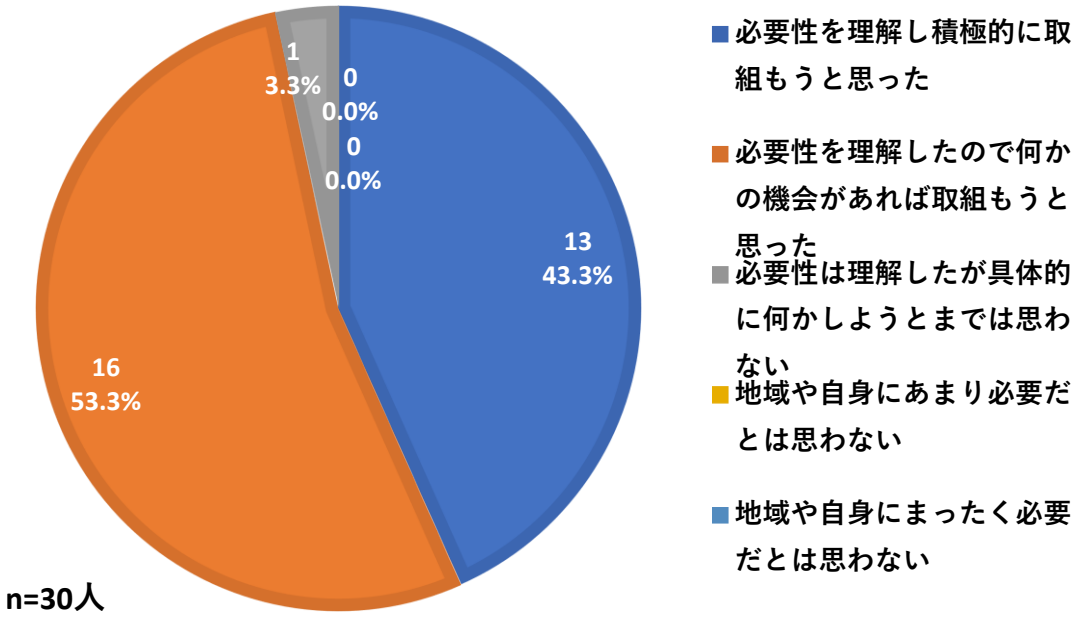
全国の自治体において SDGs の取組が求められる中、地域住民全体の巻き込みには一定のプロモーションが必要である。この課題に対して「スポーツ×SDGs（防災・環境）」をテーマに、スポーツが持つ人を集める力や巻き込む力と、「防災や環境」といった日常の生活の関心毎をテーマに紐づけて、多様な世代が参加可能な地域コミュニティ活動としての事業を展開することで、スポーツ実施率向上に加えて SDGs の取組みの推進の相乗効果があったと考える。

社会課題である「SDGs」促進への波及効果は下記に示すアンケート調査結果からもうかがえる。

【親子編講座】

講座参加者に「講座に参加して SDGs についてどう思ったか」を訪ねたところ、「必要性を理解し積極的に取組もうと思った」が 43.3%、「必要性を理解したので何かの機会があれば取り組もうと思った」が 53.3%の結果が得られた。

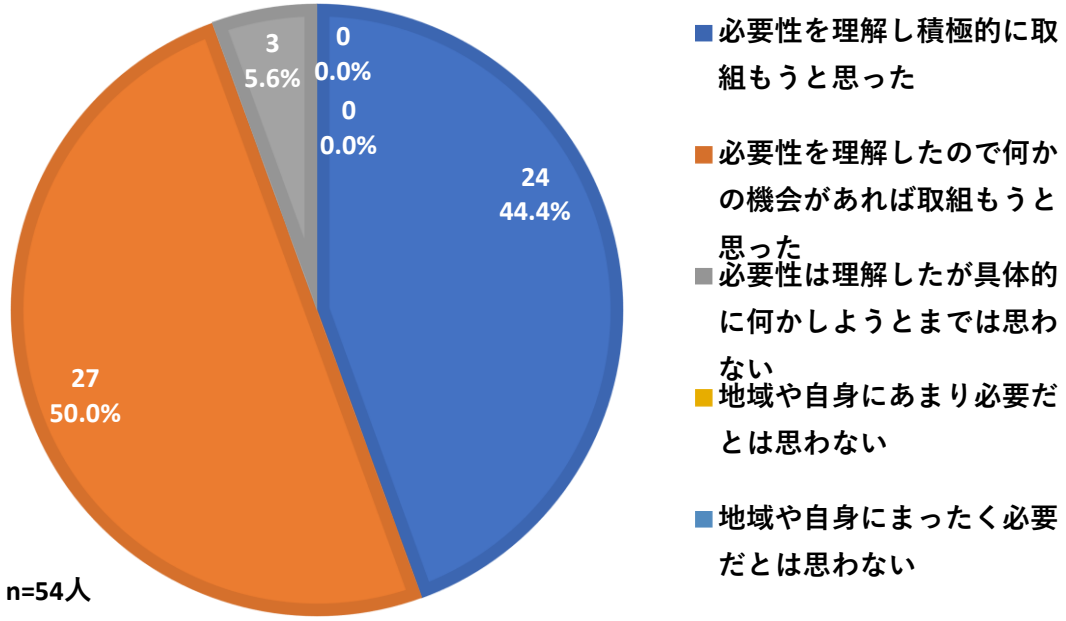
図表 25　講座に参加して SDGs についてどう思ったか（親子編）



【多世代交流編イベント】

イベント参加者に「イベントに参加して SDGs についてどう思うか」を訪ねたところ、「必要性を理解し積極的に取組もうと思った」が 44.4%、「必要性を理解したので何かの機会があれば取り組もうと思った」が 50.0%の結果が得られた。

図表 26　イベントに参加して SDGs についてどう思ったか（多世代交流編）



（2）　コミュニティ強化へつながる取組み

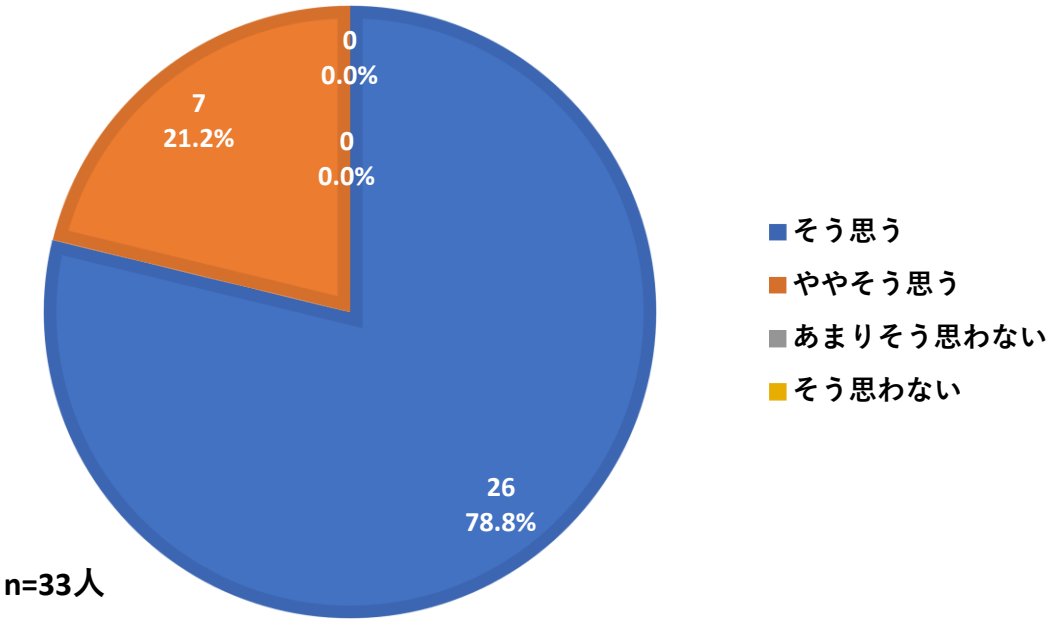
本事業は、スポーツとは異分野である「SDGs」と「防災」をキーコンテンツとして活用することにより、多世代に運動実施やコミュニティ参加の機会を提供しながら運動の習慣化を促進する目的で実施をした。同コンテンツは「SDGs の推進」と「災害に強いまちづくり」として、宮城県が「新・宮城の将来ビジョン（2020 年 12 月策定)」で達成を目標にしているものでもある。これらの達成には地域一体で推進することが前提条件となるが、本事業を通して多世代が交流・社会参加が活発になったことで、当該地域の今後のコミュニティ強化へつながる取組みであったと考える。

当該地域におけるコミュニティ強化への波及効果は下記に示すアンケート調査結果からもうかがえる。

【親子編講座】

講座参加者に「今後もこのようなスポーツを通じたコミュニティ活動（イベント）がある場合は、参加したいと思うか」を訪ねたところ、「そう思う」が 78.8%、「ややそう思う」が 21.2%の結果が得られた。

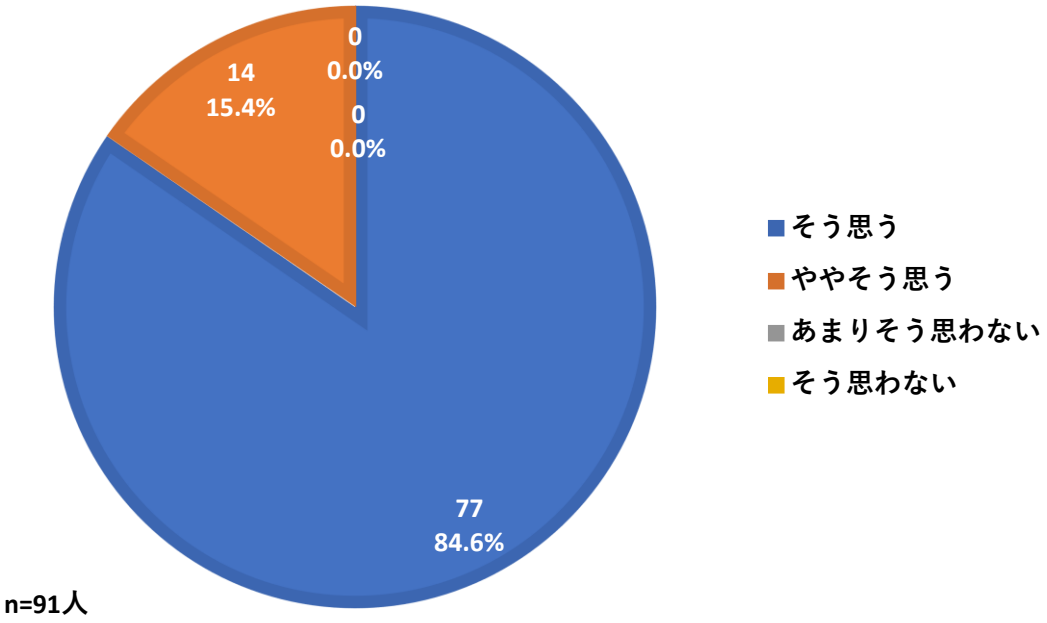
図表 27　今後もこのようなスポーツを通じたコミュニティ活動（イベント）がある場合は、参加したいと思うか（親子講座編）



【シニア編講座】

講座参加者に「今後もこのようなスポーツを通じたコミュニティ活動（イベント）がある場合は、参加したいと思うか」を訪ねたところ、「そう思う」が 84.6%、「ややそう思う」が 15.4%の結果が得られた。

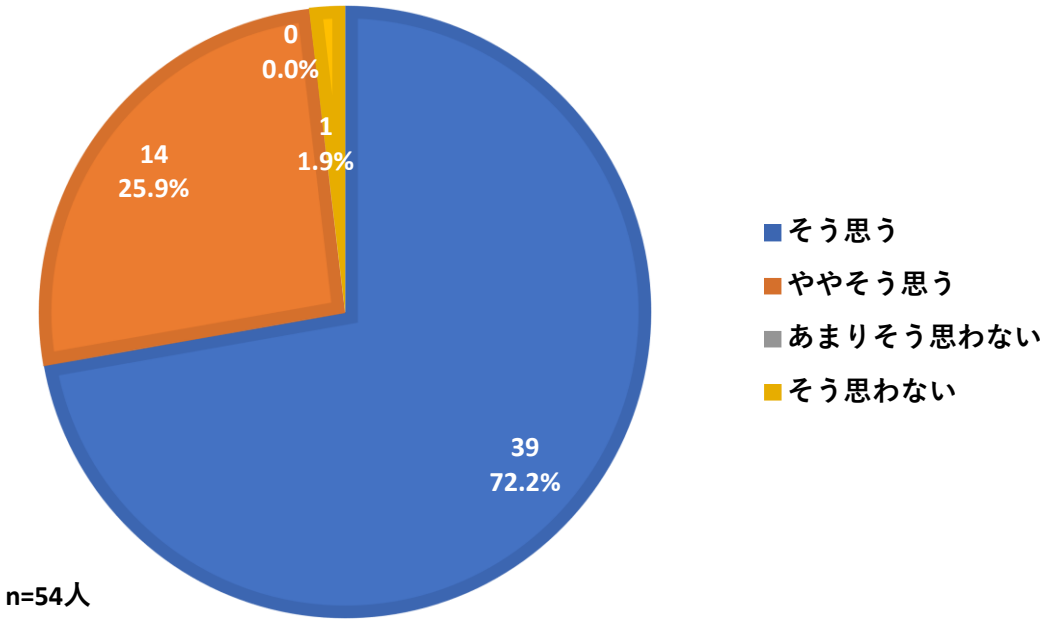
図表 28　今後もこのようなスポーツを通じたコミュニティ活動（イベント）がある場合は、参加したいと思うか（シニア講座編）



【多世代交流編イベント】

イベント参加者に「今後もこのようなスポーツを通じたコミュニティ活動（イベント）がある場合は、参加したいと思うか」を訪ねたところ、「そう思う」が 72.2%、「ややそう思う」が 25.9%の結果が得られた。

図表 29　今後もこのようなスポーツを通じたコミュニティ活動（イベント）がある場合は、参加したいと思うか（多世代交流編）



８．今後の事業展開予定

（１） 事業継続や横展開に向けたポイント、課題

本事業終了後の事業の自走化、横展開をしていくために、ポイント及び課題を次のように整理した。

【自走化・横展開のためのポイント】

①継続的なコミュニティの拠点づくりの取組み

地域に開かれたテレビ局として新社屋のホール等を活用しながら継続的に地域コミュニティの拠点づくりの役割を担っていくことにより、事業の継続性を担保する。

➡身近な地域資源を活用したコミュニティ拠点を構築し、この場を活用した各種スポーツイベント等を実施することで、参加人数の拡大や今後の活動の継続につなげていく。

②子どもを中心とした多世代の巻き込み

子どもと一緒の時間を持ちたい親や孫と過ごすことが楽しみな祖父母シニアが比較的多いことは、様々な調査結果データや論文からもうかがえる。本事業では子どもをフックに保護者・祖父母シニアを巻き込み、多世代へのリーチが可能な広がりのある展開を図る。

➡多世代が一緒に楽しめる内容の事業を実施することにより、スポーツを通じたコミュニティ活動の参加率・継続率を高める。

【今後の課題】

①自治体との連携推進

市民のスポーツ実施率の向上や健康増進については自治体としても取組みを行っている事業であることから、本事業で構築したスキームと相互連携を図ることによりさらなる実施効果が期待できる。今後は、相互連携のもと事業を継続実施する方針を検討していきたい。

②地元企業の健康経営との連携検討

従業員の健康に投資して企業のパフォーマンス向上を図る健康経営の考え方が注目される中、地元企業の健康経営の取組みと本事業で構築したスキームを連携させることにより、忙しい子育て世代（=働き世代）のスポーツ実施率の改善効果を高めていきたい。

（２） 次年度以降の事業継続、横展開の計画

事業継続や横展開の計画については、検証結果等を踏まえ、次の方向性で検討していきたい。

【事業継続・横展開】

①防災や環境といった日常生活に密着したテーマ設定

日常生活において、安心・安全で心地よく生活していくための防災や環境といったテーマは、市民の関心が高く、また多様な世代が同じ目的意識をもって集いやすい。さらに、これらはSDGsの文脈で事業を継続的に実施できるテーマであり、SDGsを推進する自治体が複数あることから横展開がしやすいと考える。

②地域のテレビ局というメディアのチカラを活用して情報発信

スポーツ実施者の増加に向けた社会的気運の醸成や取組みの横展開を図るうえで、事業内容や取組み状況を地元のメディアで情報発信することにより、広く周知していく。

【横展開先】

①宮城県下の自治体へアプローチ

市民のスポーツ実施率の向上や健康増進に課題を持つ宮城県下の自治体は複数存在しており、本事業スキームの潜在的需要は少なくないと考える。震災に加えてコロナ禍でより深刻化しているスポーツ実施を阻害する要因の解決策として、宮城県下の自治体に対して事業の提案をしていきたい。

②企業への横展開

従業員の健康経営を既に実践している企業と可能な連携をすることに加えて、これから取組みを始める企業については、本事業スキームの潜在的需要があると予測できる。まずは仙台エリアや宮城県内の企業にアプローチをし、企業の課題解決に寄与する形での横展開を考えたい。

（3） 今後の事業展開に向けて期待される Sport in Life プロジェクトにおける取組

今後の継続的な事業展開については、Sport in Life コンソーシアム取組事例発表／意見交換・交流会に期待を寄せている。事業基盤の維持・拡充においても他団体の事例を学ぶことや繋がりを持つことは大変望ましいことである。是非他団体、他地域での成功事例を積極的に取り入れていきたい。

また、Team Sport in Life での情報発信事業のように、幅広い層に響く取り上げ方をしていただくことで、日頃スポーツをしない人でも「スポーツって意外と面白そう」となり、地域住民にも潜在的に Sport in Life を身近に感じてもらえると考える。そのような住民を巻き込みなが、継続的な事業展開を行っていきたい。

９．終わりに

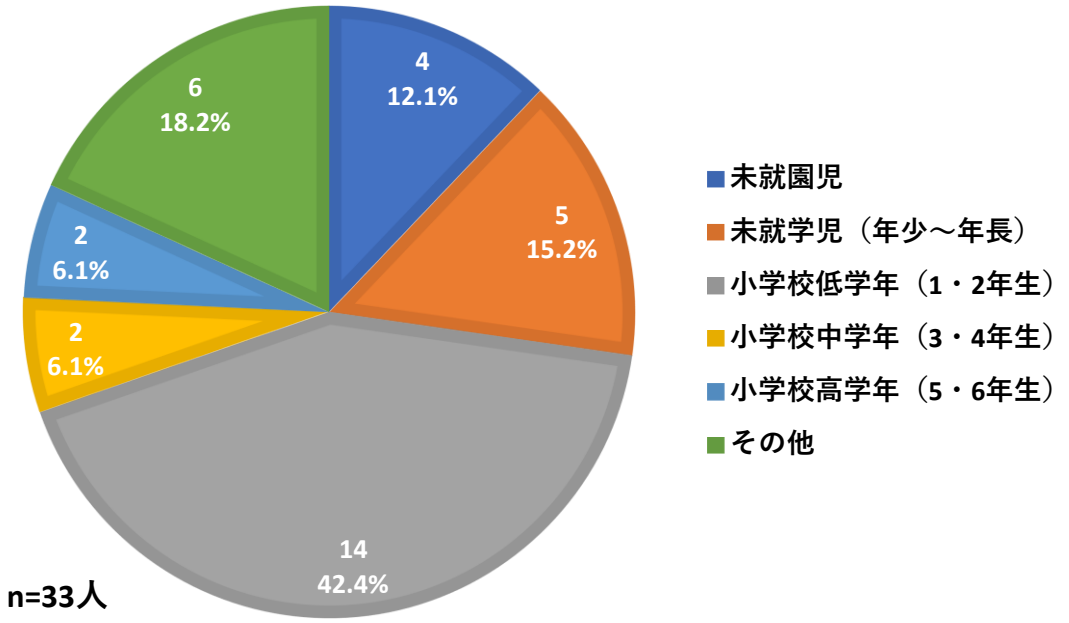
コロナ禍のリアルイベントということもあり、集客には苦労した。参加申し込みをされていても、日々変わりゆくコロナの影響を受け、キャンセルされる参加者も多く見受けられた。今後はウイルスや天候などに影響されにくい、オンライン型も取り入れ、ハイブリッドイベントも検討していきたい。また、イベント実施日が選挙投票日に重なったり、宮城の 11 月末のイベントということで気温が低く屋外アウトドアイベントに適さなかったりなど、集客に苦しむ様々な課題を認識できたので、今後の事業展開に向けて役立ていきたい。

他には、参加者アンケート調査を見ると、実施内容に関して一定の満足度が示される結果であった。今回のイベントで参加者に響いた「運動不足の解消」や「地域コミュニティの意義」に焦点を当て、今後も地域に開かれた放送局として「Sport in Life」を普及させるイベントを実施していきたい。一方、事業を継続するための課題も見えた。参加者にその場で「楽しい」と思ってもらえたとしても、「Sport in Life」の根底にあるスポーツを日常に取り入れることの意義を感じてもらわなければ、スポーツとの距離がある参加者に関しては、自発的に日常にスポーツを取り入れてもらうことはできないとも感じた。事業を継続するにあたって、気軽に誰でもいつでも参加できるようなスポーツイベントを定期的に行っていきたい。また、本事業のシニア編のイベントで行ったように、自宅でも簡単にできる運動など、日常に取り入れられるスポーツに着目して事業拡大をしていきたいと考える。他にも、アンケート結果を見ると本事業スキームに対する需要は存在しており、潜在顧客の掘り起こしに可能であると見受けられた。今年度の事業成果を踏まえ、地域活性化の拠点として地域内の事業の充実および地域への横展開に取り組んでいきたいと考える。

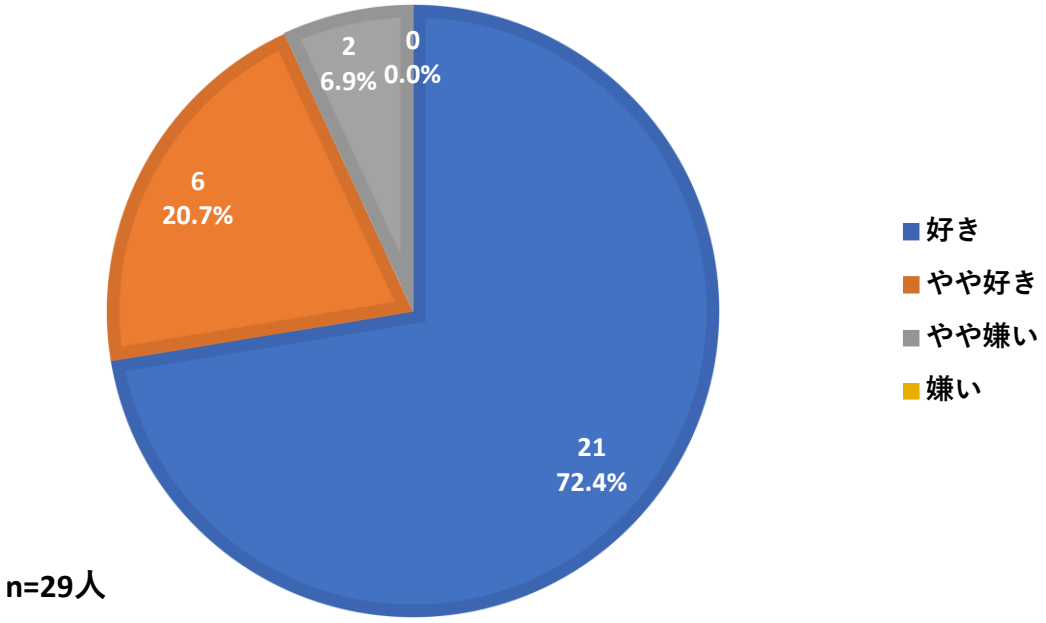
参考資料：アンケート調査票・集計結果詳細

（１）　親子アイデアソン参加者アンケート調査結果

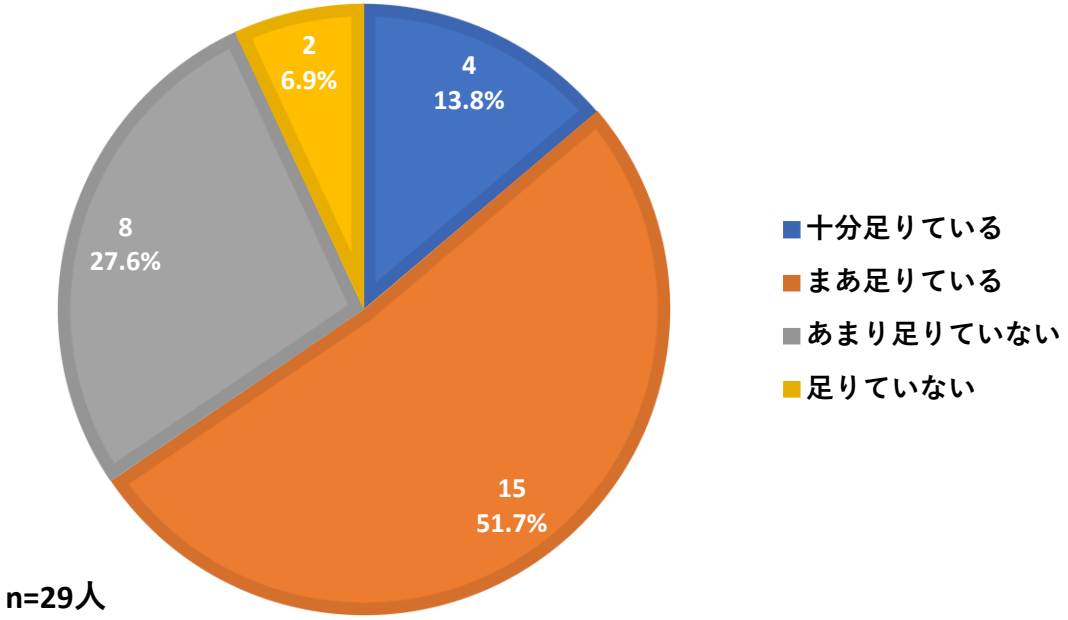
問1．今回アイデアソン講座に参加されるお子さんの学年ついてお答えください。



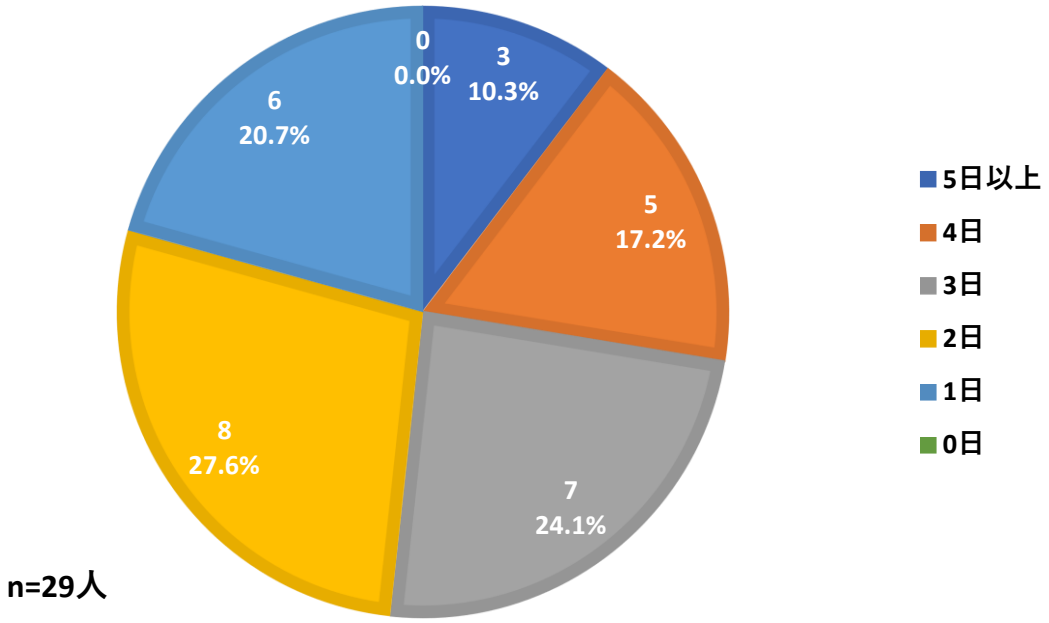
問２．お子さんは、運動・スポーツやからだを動かす遊びは好きですか？



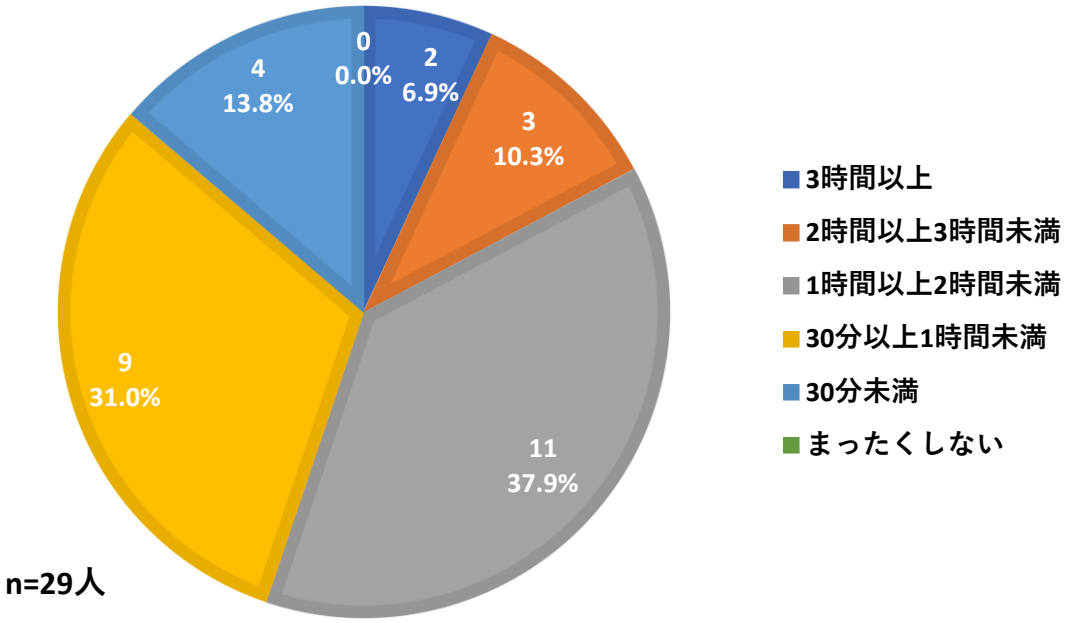
問３．日頃のお子さんの活動量（歩数などの運動量）は、足りていると思いますか。



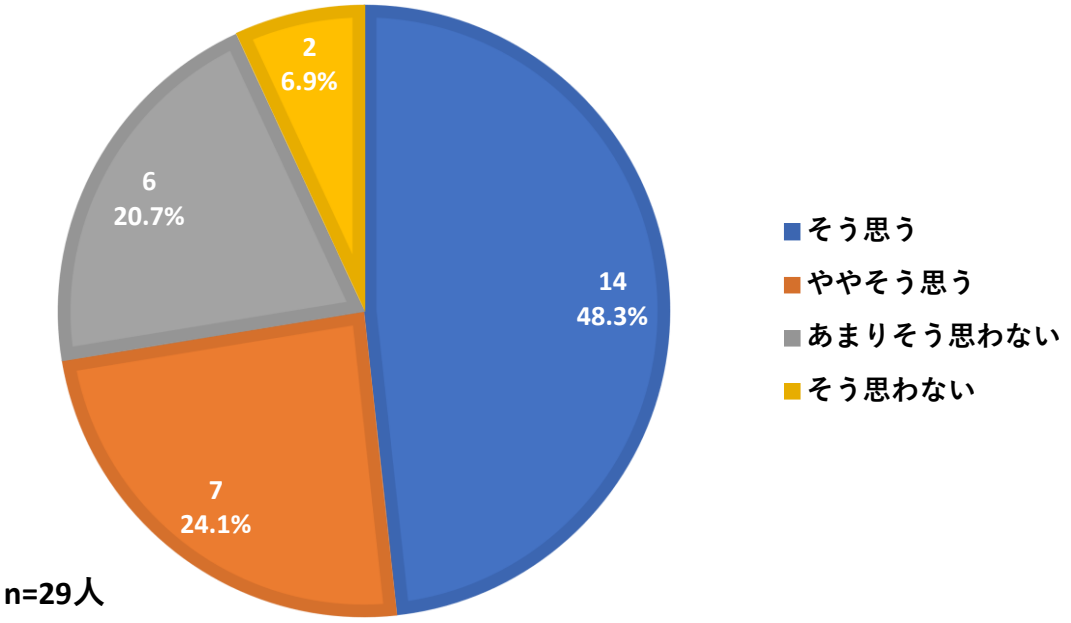
問４．お子さんが運動・スポーツをするのは週あたりどのくらいですか。
※保育所・幼稚園や学校で過ごす時間以外の時間をお答えください。



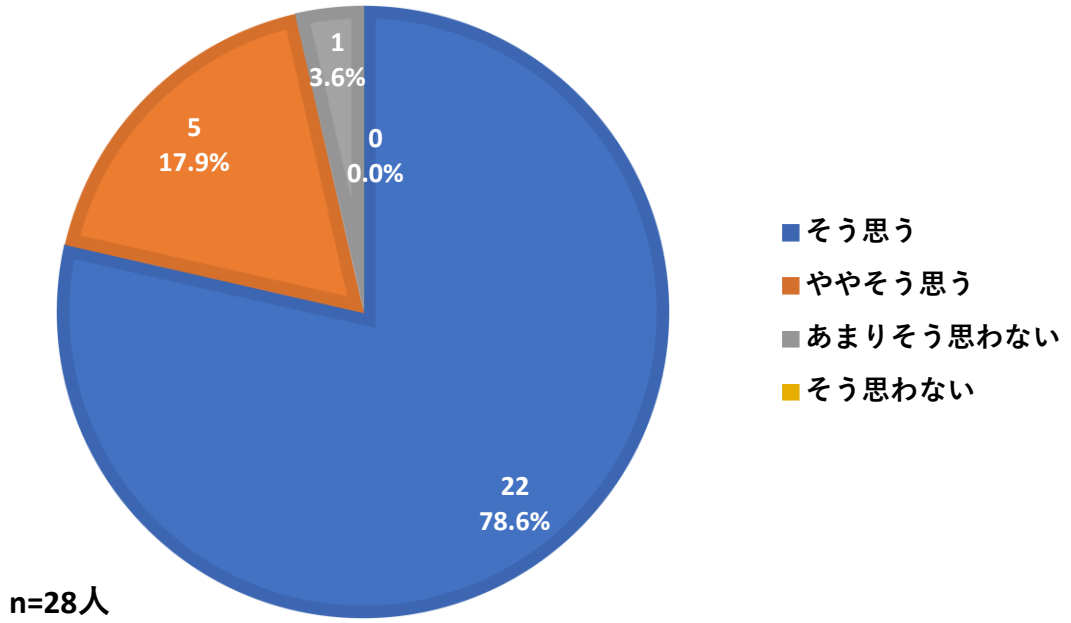
問５．お子さんが運動・スポーツをする時間は１日あたり（週の平均）どのくらいですか。※保育所・幼稚園や学校で過ごす時間以外の時間をお答えください。



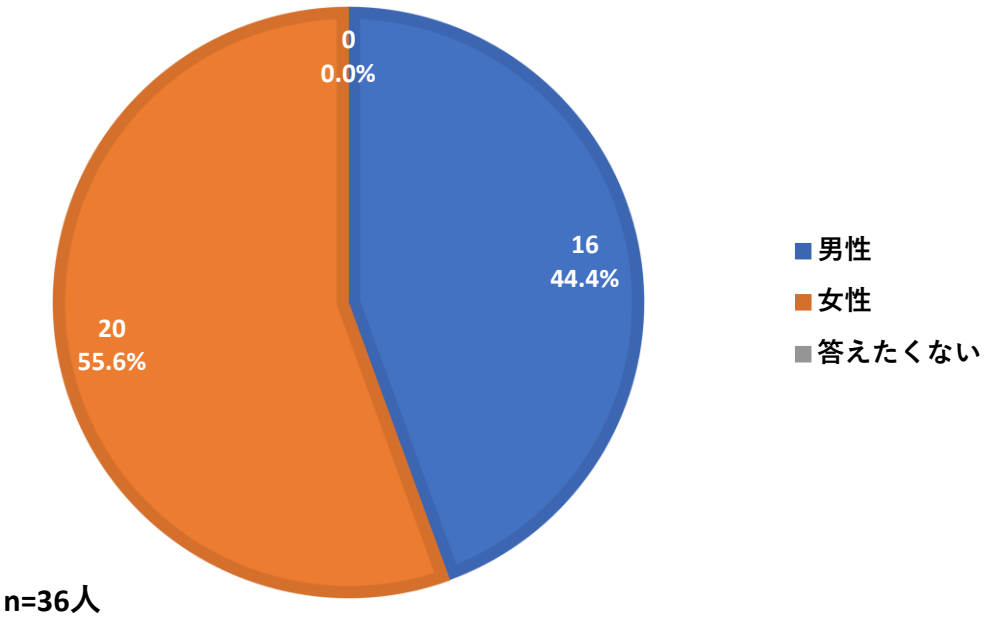
問６．新型コロナウィルス感染症の拡大以降、保育施設・学校などの休校や、イベントなどの中止、外出自粛など日常生活に変化が出ていると思いますが、これにより、お子さんがカラダを動かす機会や友達と遊ぶ機会は以前よりも減っていると思いますか。



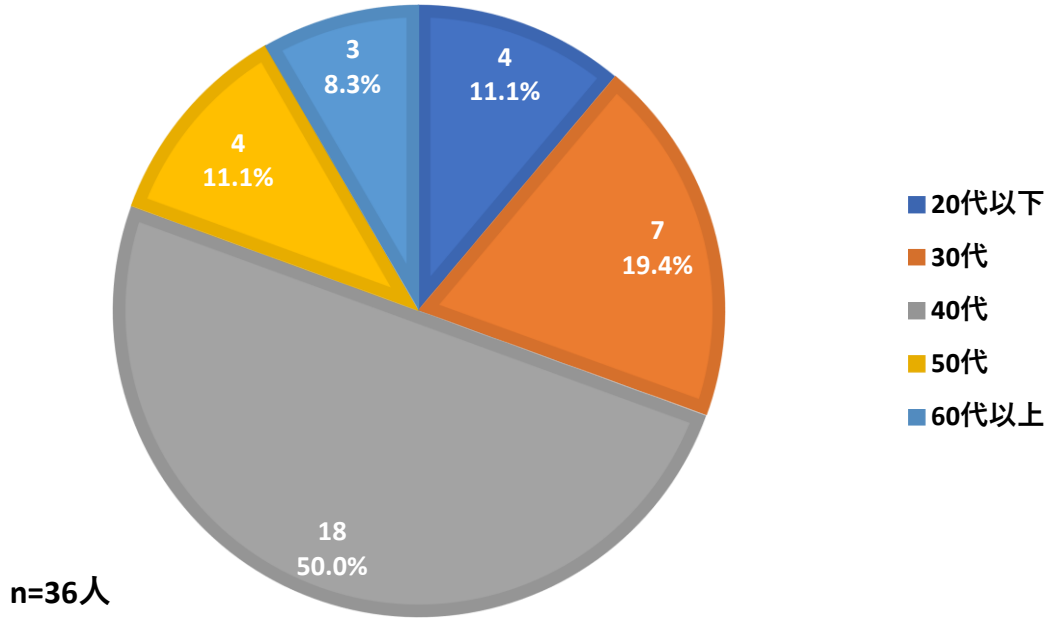
問７．お子さんには、運動・スポーツをもっとさせたいと思いますか？



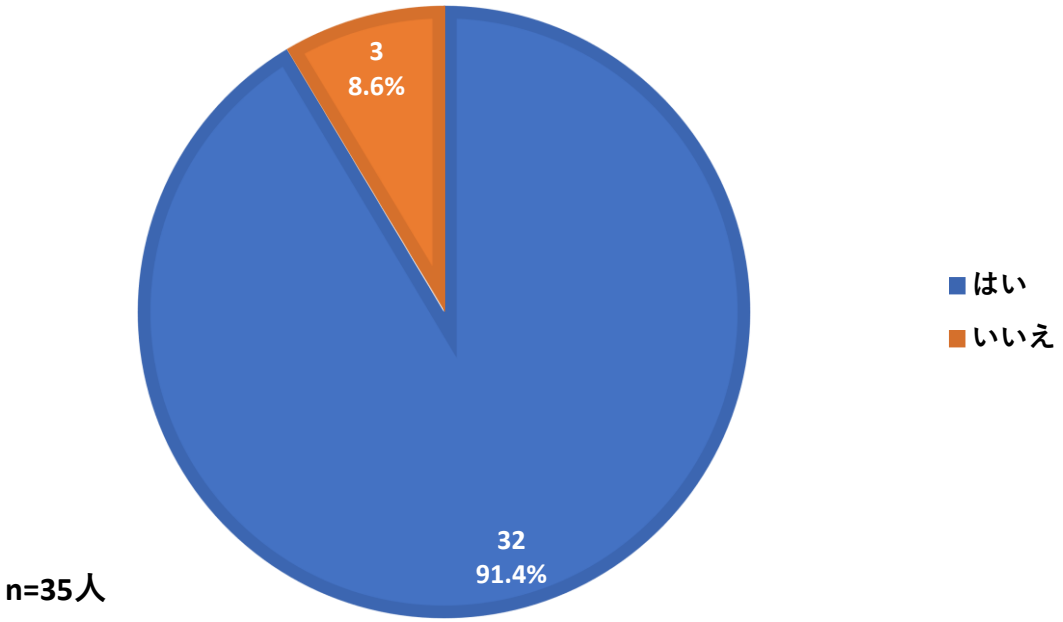
問８．あなたの性別を教えてください。



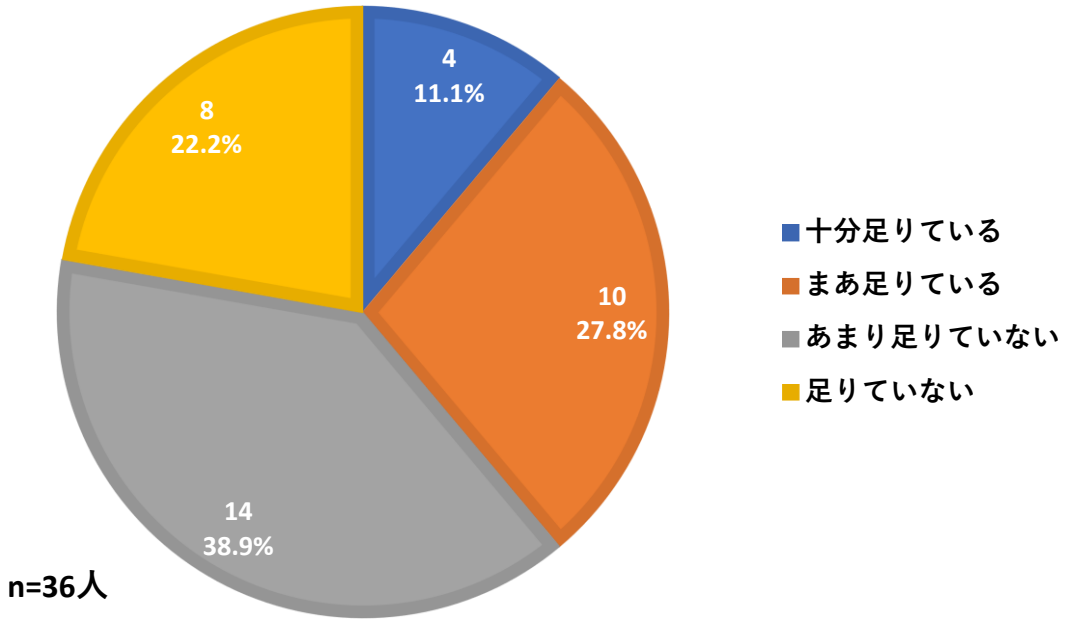
問 9. あなたの年代を教えてください。



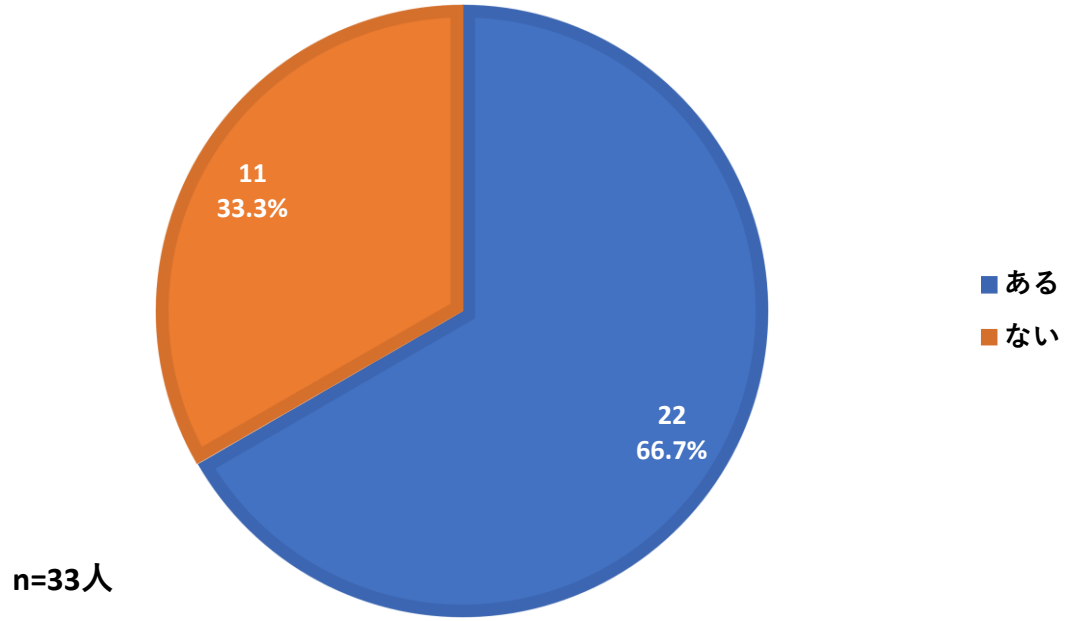
問 10. あなたはカラダを動かすことが好きですか。



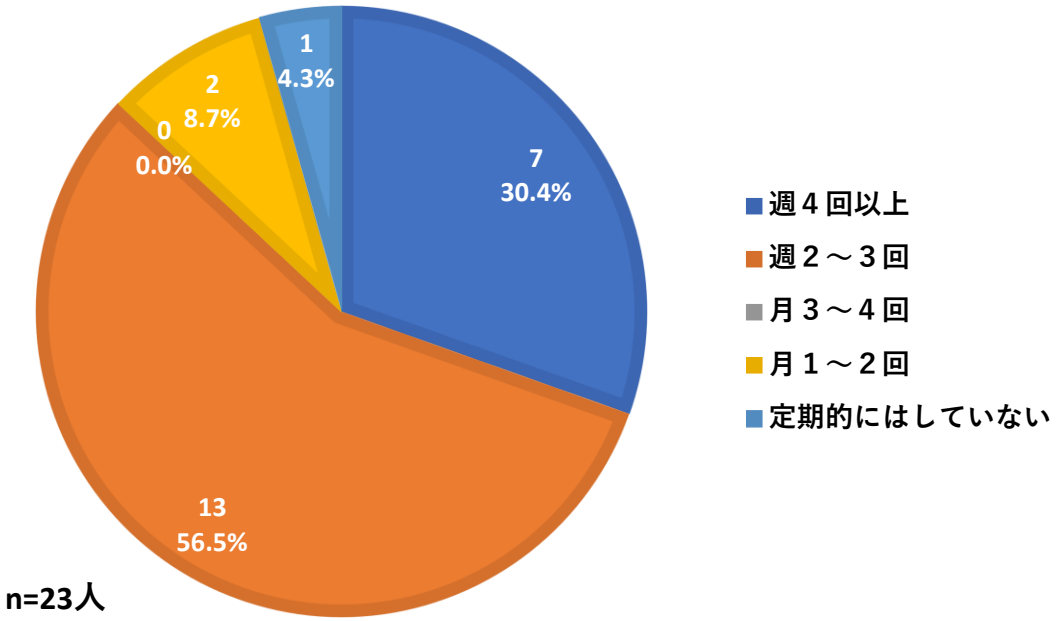
問 11. あなたの日頃の活動（歩数などの運動量）は、足りていると思いますか。



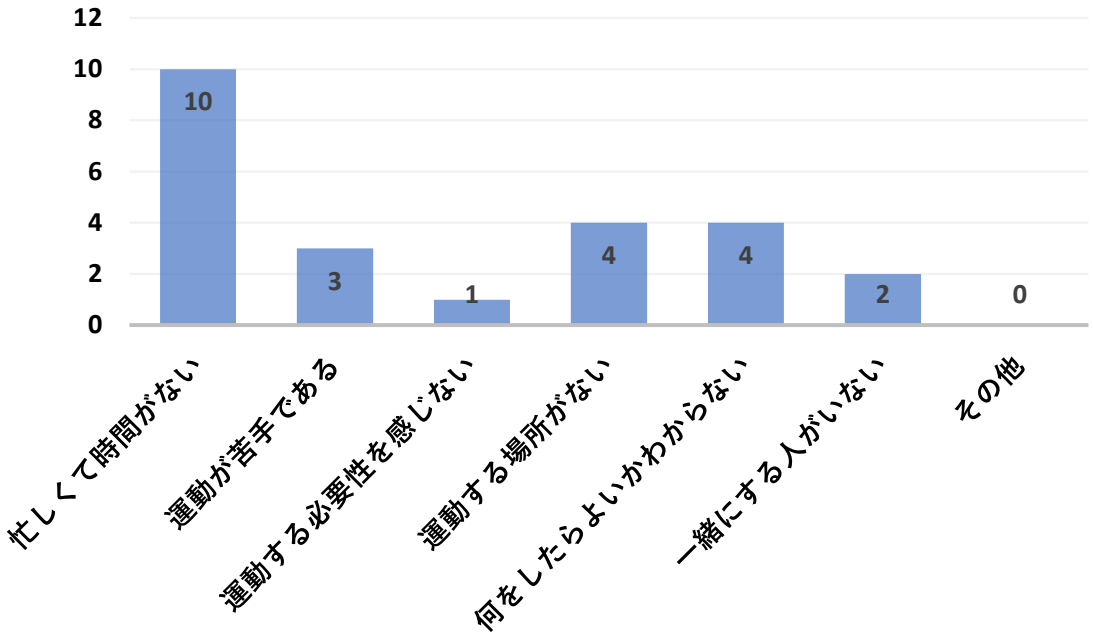
問 12. あなたは、運動をすることがありますか。



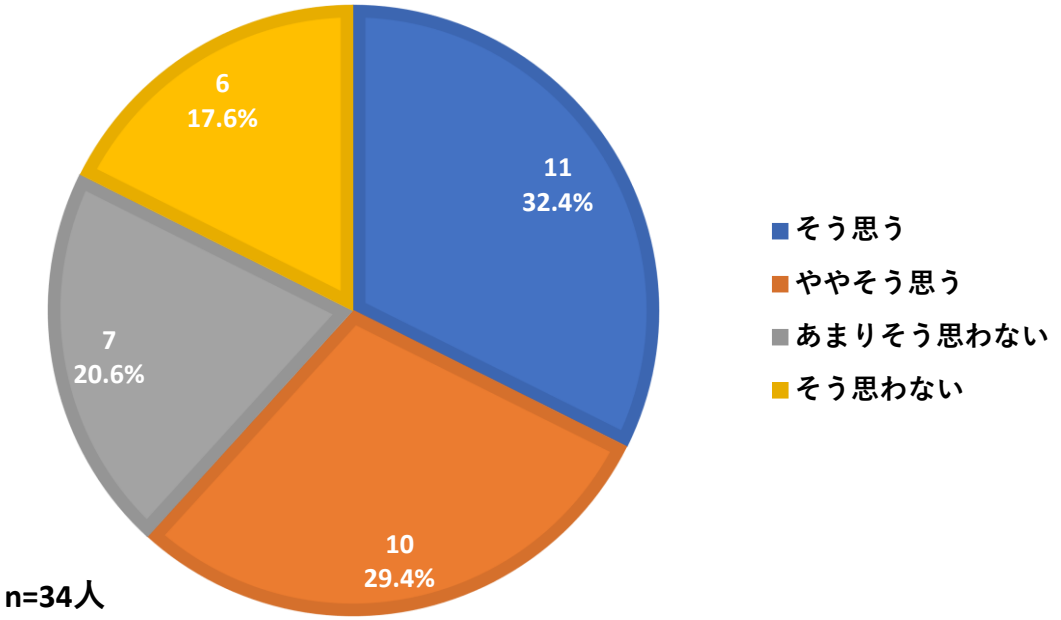
問 13. あなたが運動をする頻度は平均するとどの程度ですか。(問 12 で「１．ある」と回答された方)



問 14. あなたが運動をしない理由は何ですか。(問 12 で「２．ない」と回答された方 10 人)

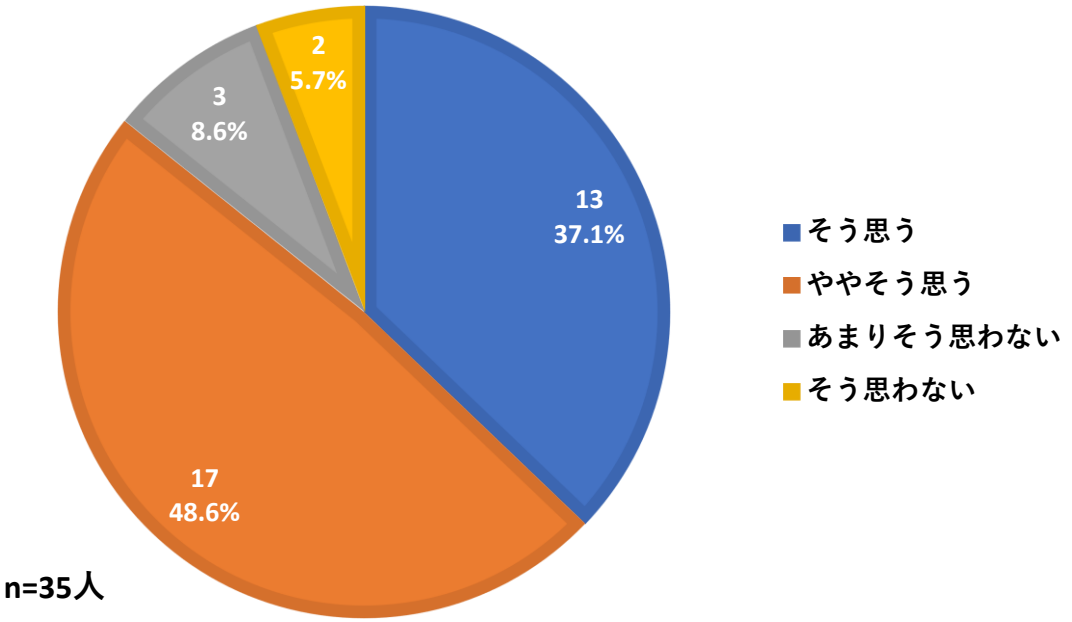


問 15. 新型コロナウィルス感染症の拡大以降、外出自粛など日常生活に変化が出ていると思いますが、これにより、あなたがカラダを動かす機会は以前よりも減っていると思いますか。

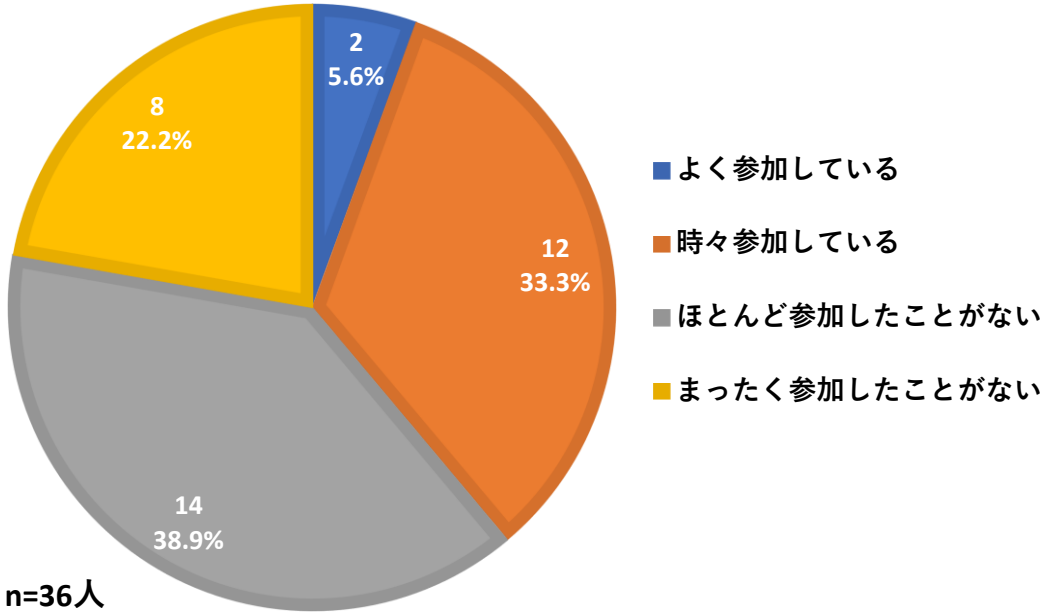


※このアンケートでは、町内会行事、地域のボランティア・サークル活動、自治体や地元企業が主催する地域イベントなどをコミュニティ活動としています。

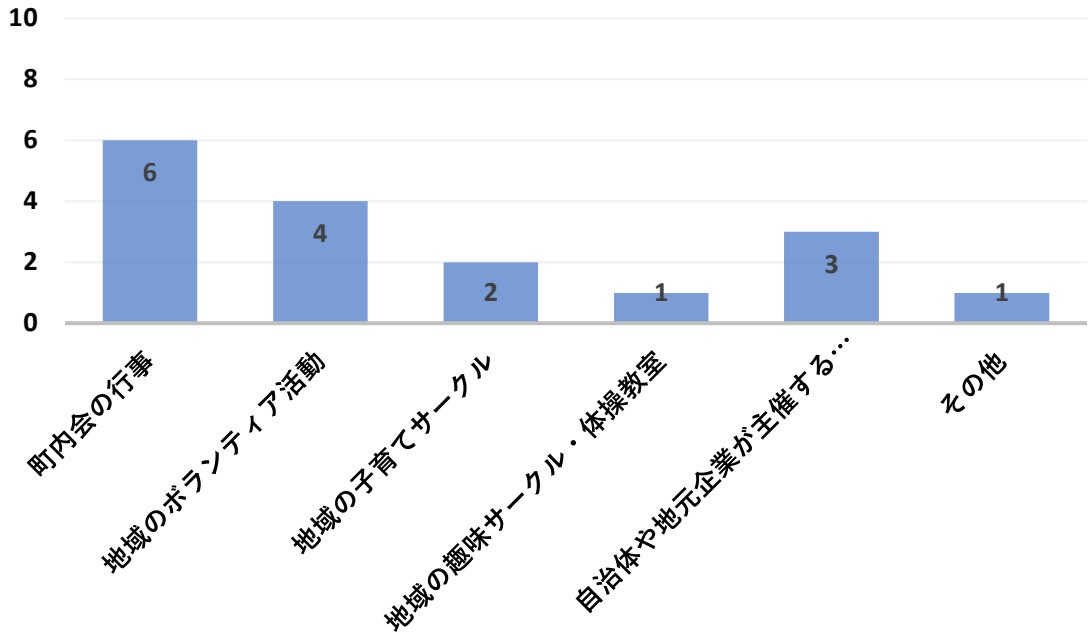
問 16. あなたは、地域のコミュニティ活動に関心がありますか。



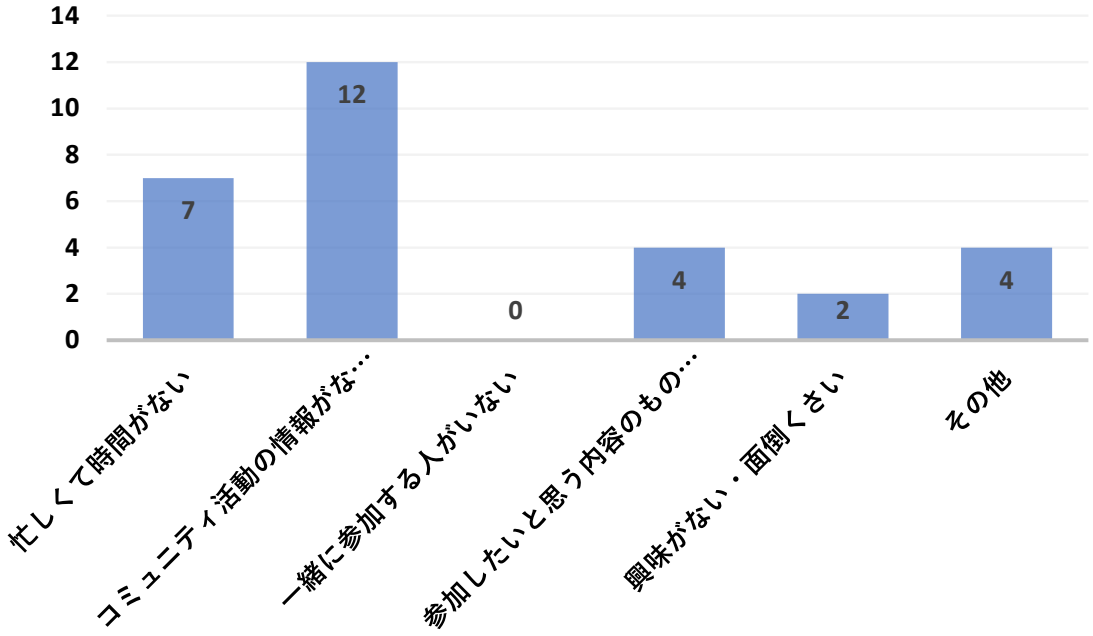
問 17. あなたは、地域のコミュニティ活動に参加していますか。



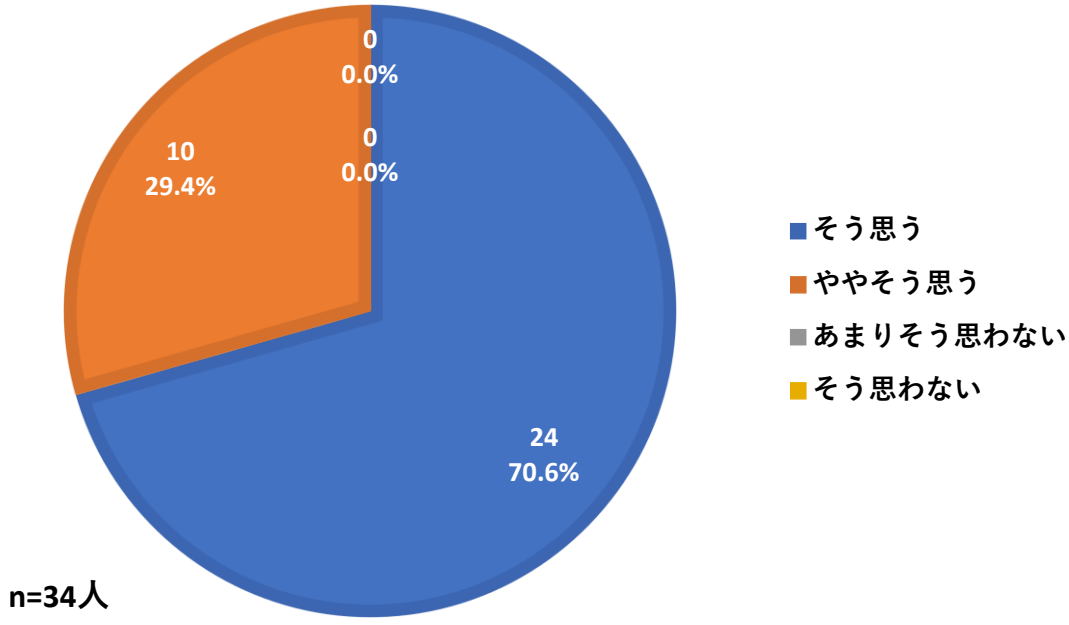
問 18. あなたが参加する地域のコミュニティ活動はどのようなものですか。（「1. よく参加している　または　2. 時々参加する」と回答された方 14 人）



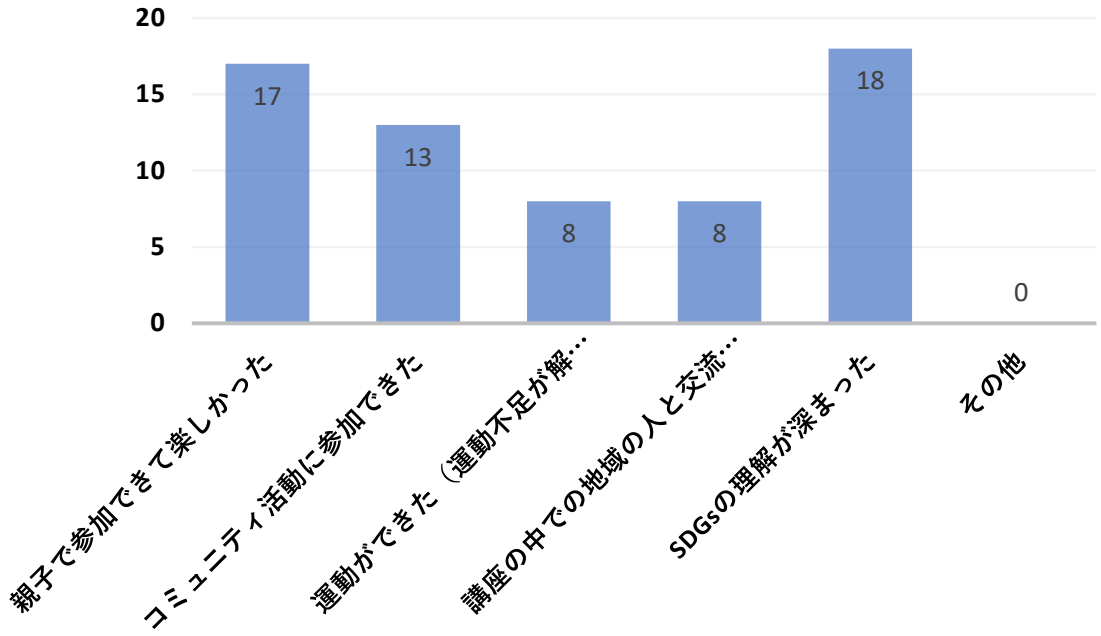
問 19. あなたが地域のコミュニティ活動に参加しない理由は何ですか。(「3. ほとんど参加したことがない　または　4. まったく参加したことがない」と回答された方 22 人)



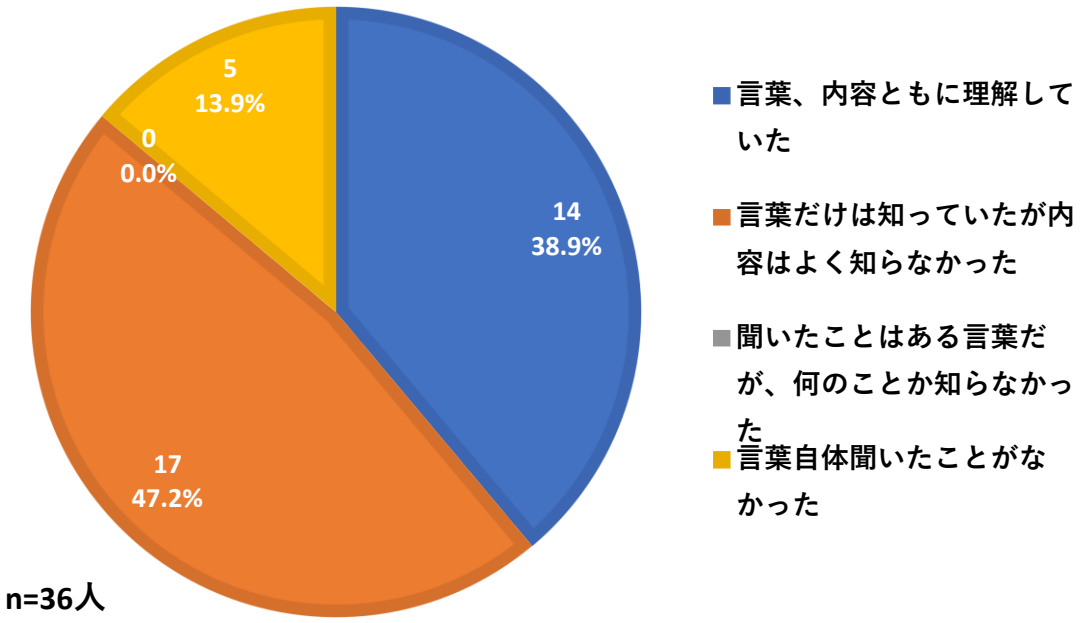
問 20. 今回アイデアソン講座に参加して良かったと思いますか。



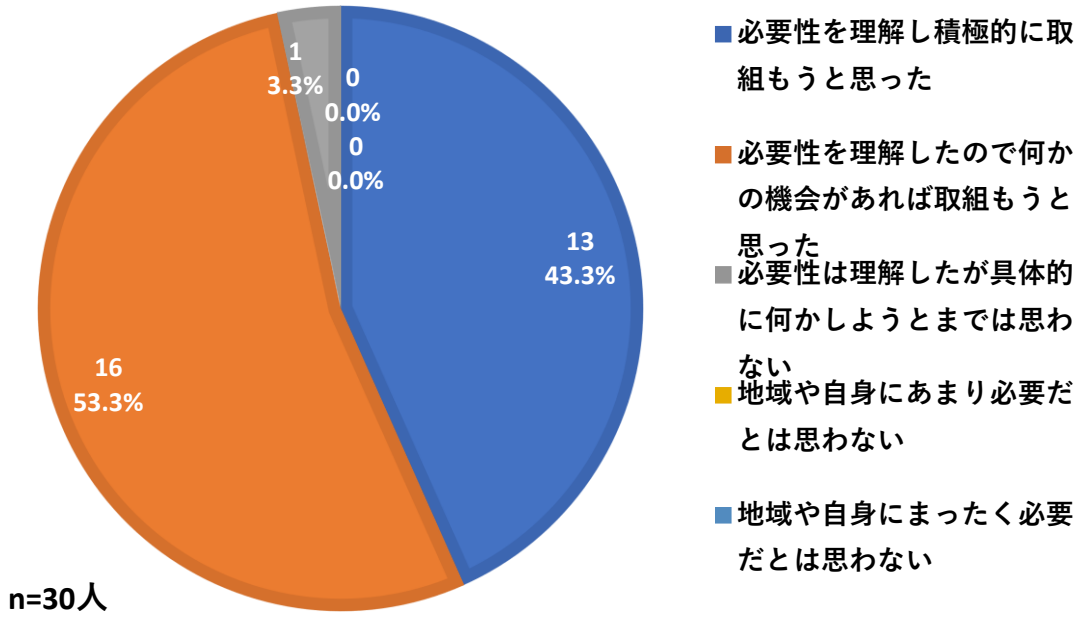
問 21. アイデアソン講座の良かった点をお答えください。(問 20 で「1. そう思う　または 2. ややそう思う」と回答された方 34 人)



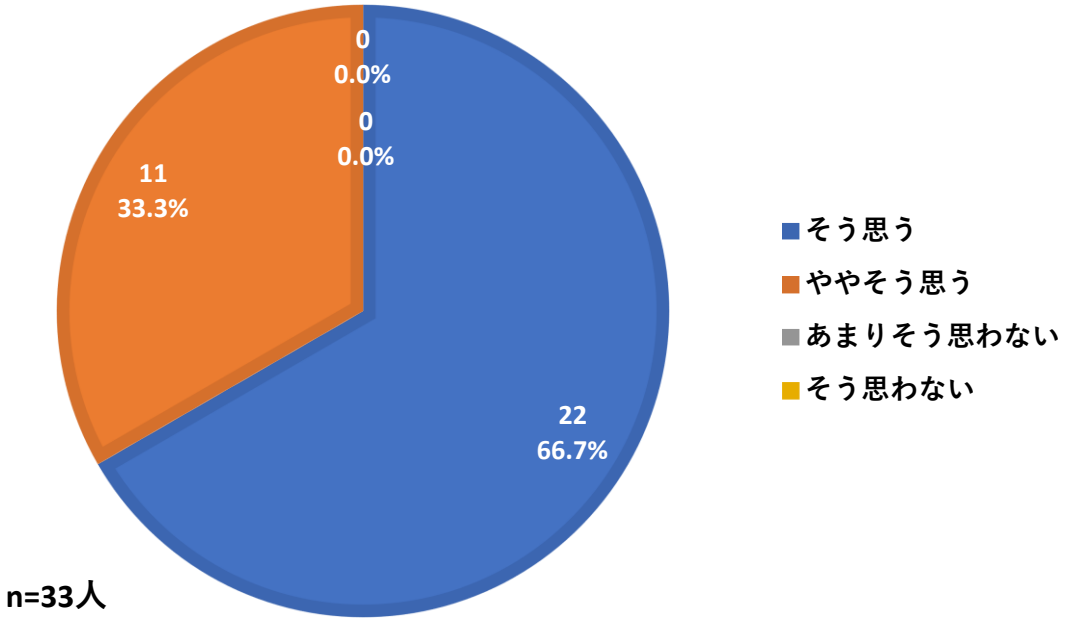
問 22. あなたはアイデアソン講座の参加前から SDGs を知っていましたか。



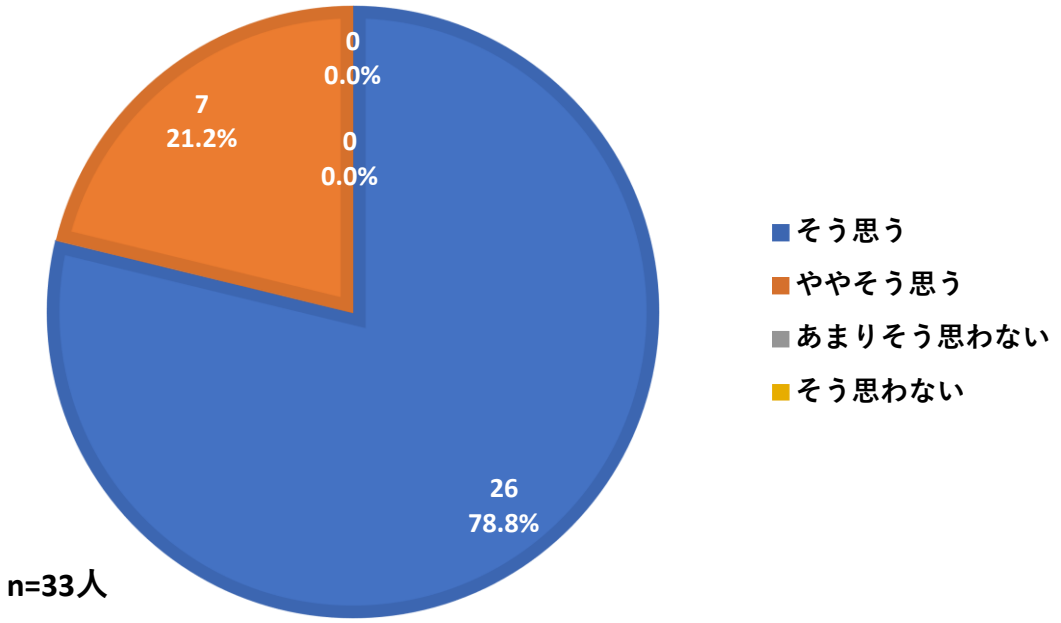
問 23. あなたはアイデアソン講座に参加して SDGs についてどう思いましたか。



問 24. アイデアソン講座は、地域の皆さんにコミュニティ活動の中で運動・スポーツを楽しんでいただくために実施しました。このような機会がご自身の運動不足の解消や健康増進に役立つと思いますか。

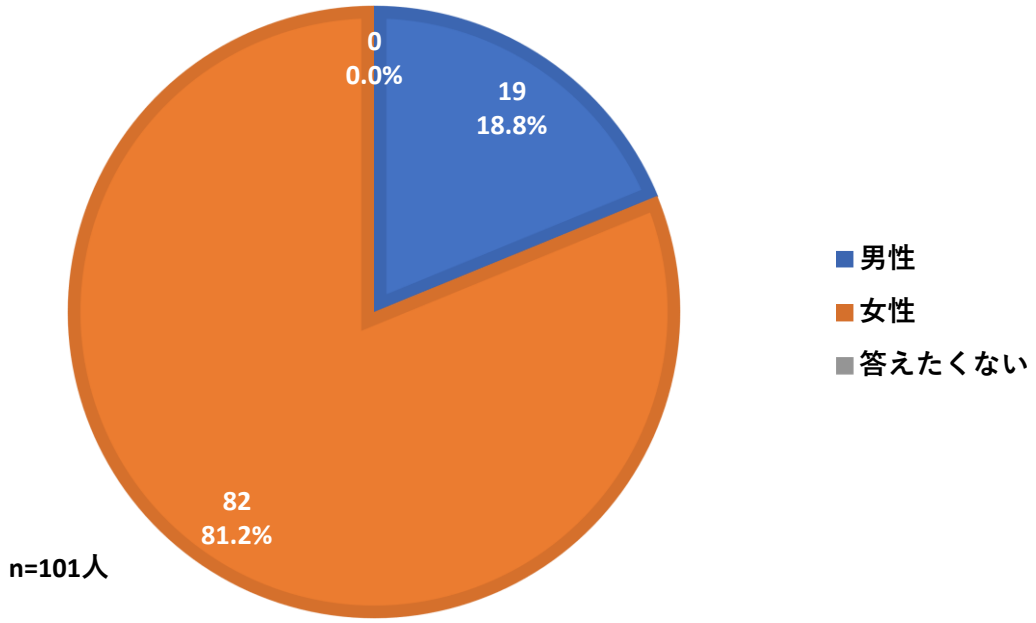


問 25. 今後もこのようなスポーツを通じたコミュニティ活動（イベント）がある場合は、参加したいと思いますか。

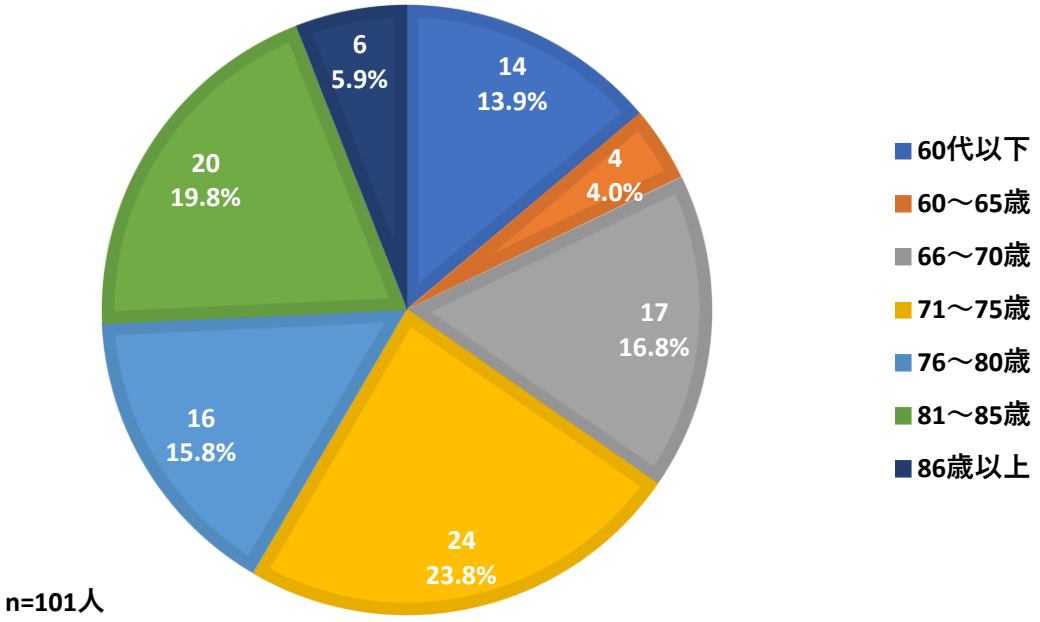


（２） **転ばぬ先の杖！まさかに備えるからだづくり講座参加者アンケート調査結果**

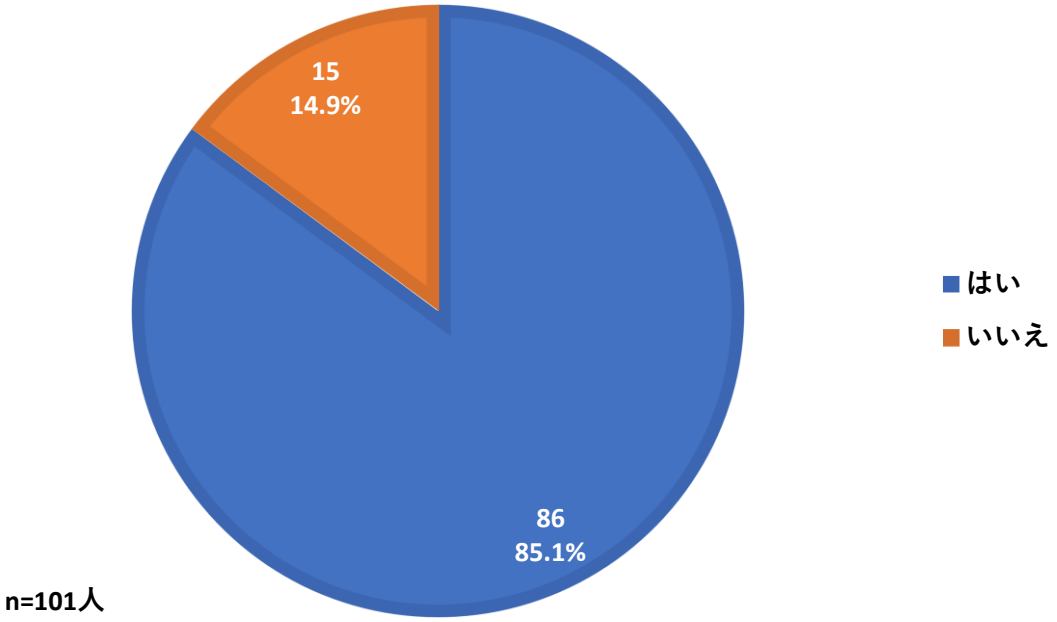
問 1. あなたの性別を教えてください。



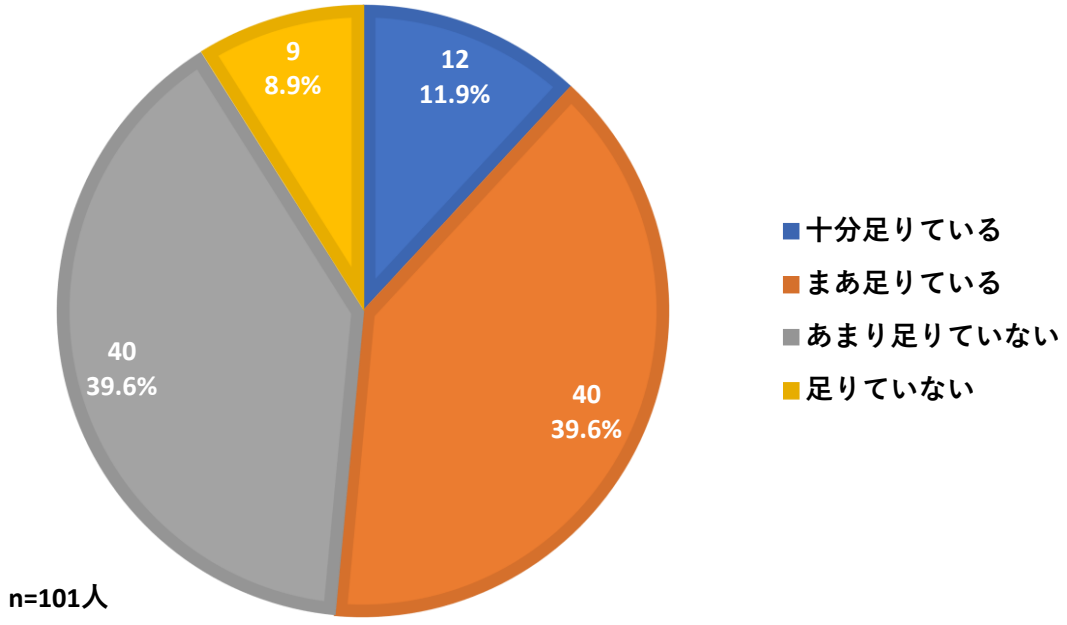
問 2. あなたの年代を教えてください。



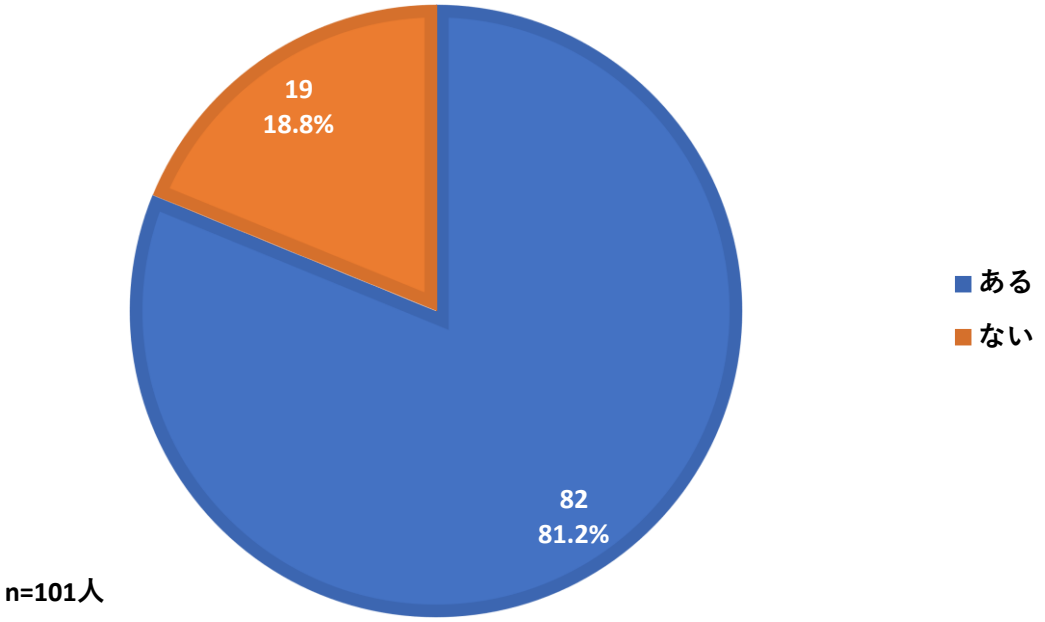
問 3. あなたはカラダを動かすことが好きですか。



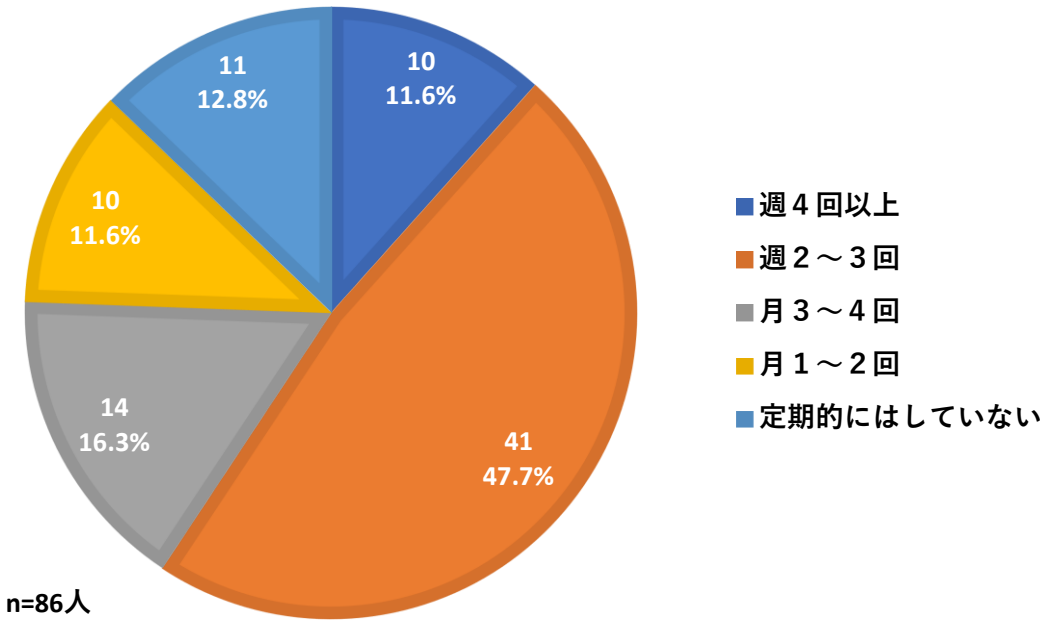
問 4. あなたの日頃の活動（歩数などの運動量）は、足りていると思いますか。



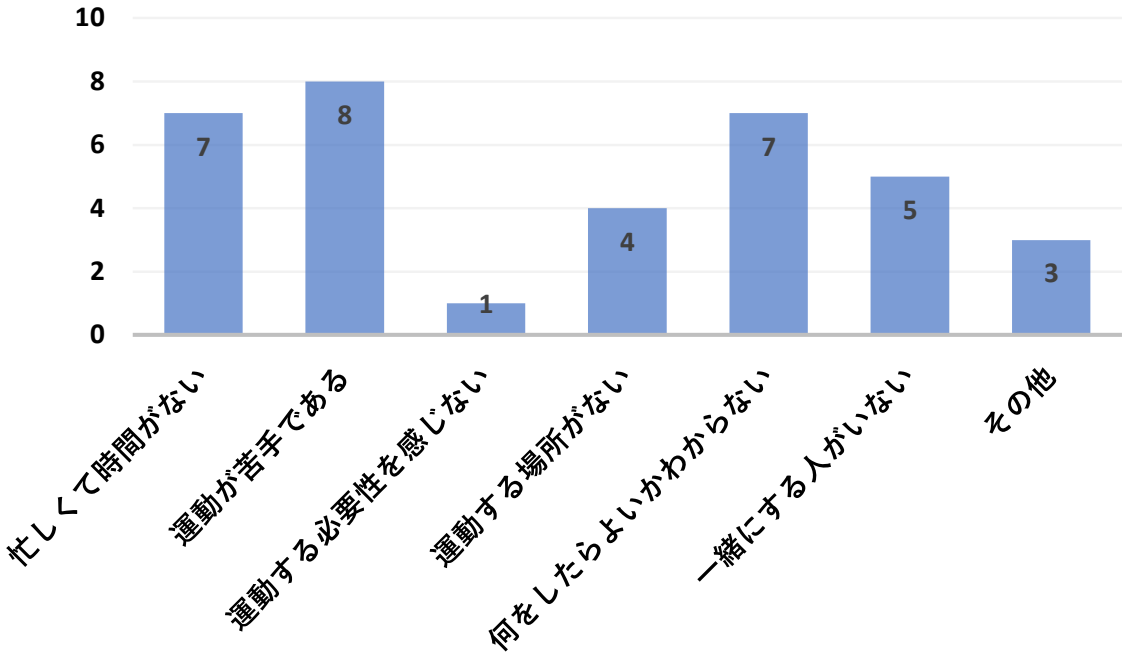
問 5. あなたは、運動をすることがありますか。



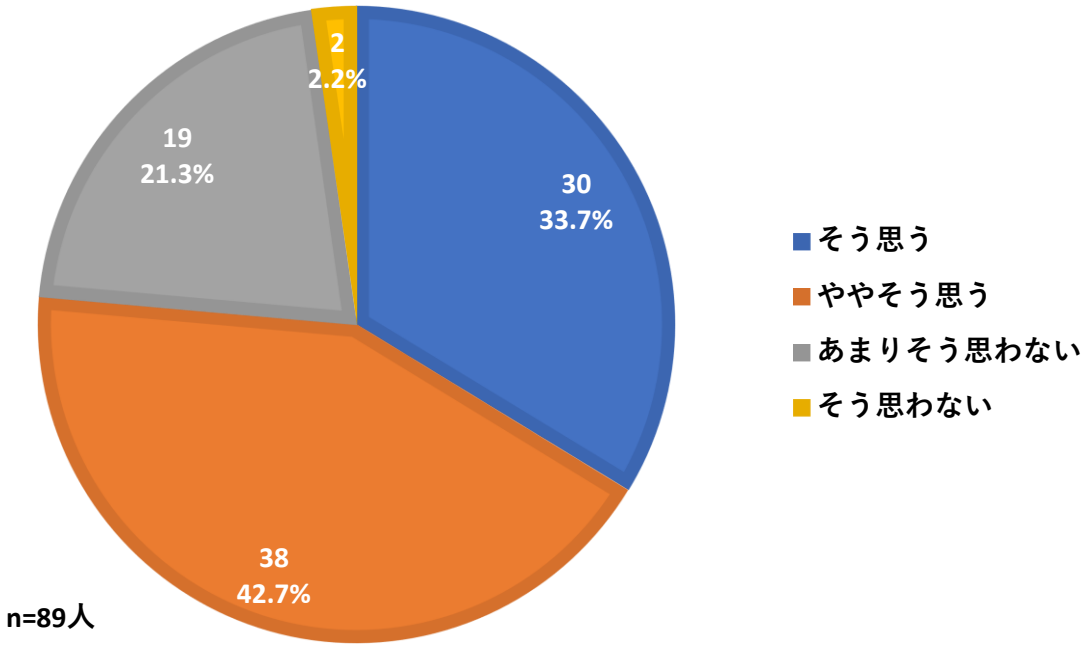
問 6. あなたが運動をする頻度は平均するとどの程度ですか。（問 5 で「1. ある」と回答された方）



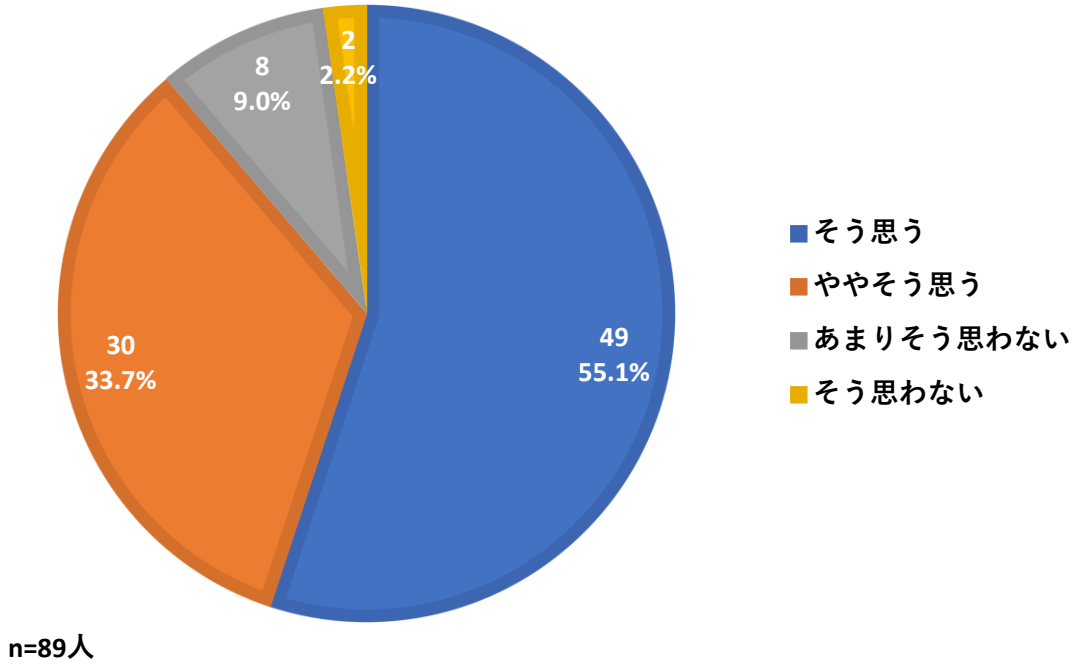
問 7．あなたが運動をしない理由は何ですか。（問 5 で「２．ない」と回答された方 19 人）



問 8．新型コロナウィルス感染症の拡大以降、外出自粛など日常生活に変化が出ていると思いますが、これにより、あなたがカラダを動かす機会は以前よりも減っていると思いますか。

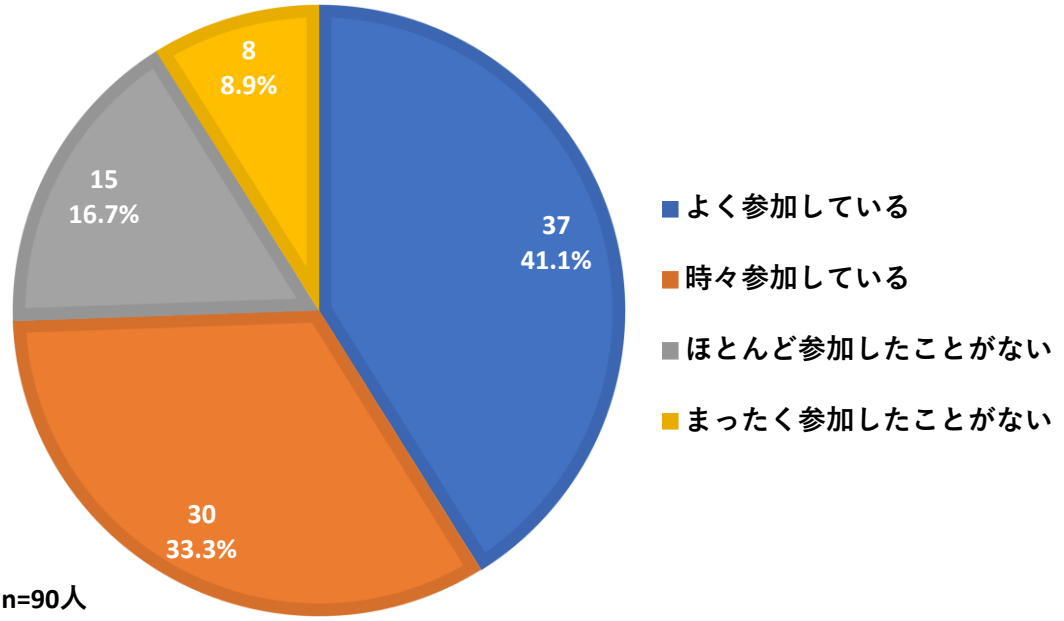


問 9. あなたは、地域のコミュニティ活動に関心がありますか。※このアンケートでは、町内会行事、地域のボランティア・サークル活動、自治体や地元企業が主催する地域イベントなどをコミュニティ活動としています。



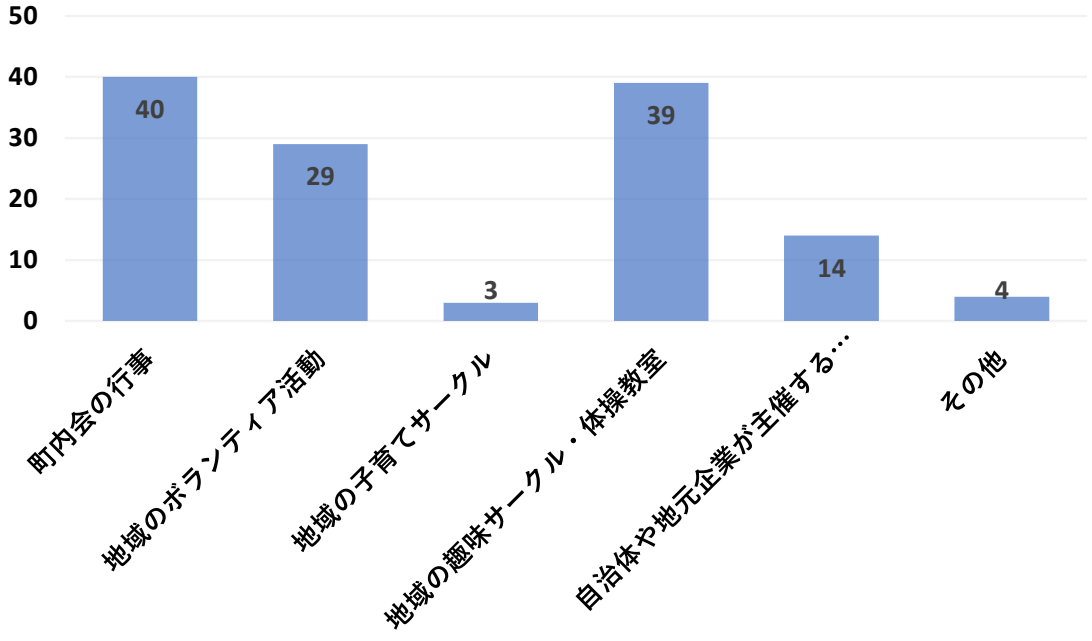
n=89人

問 10. あなたは、地域のコミュニティ活動に参加していますか。



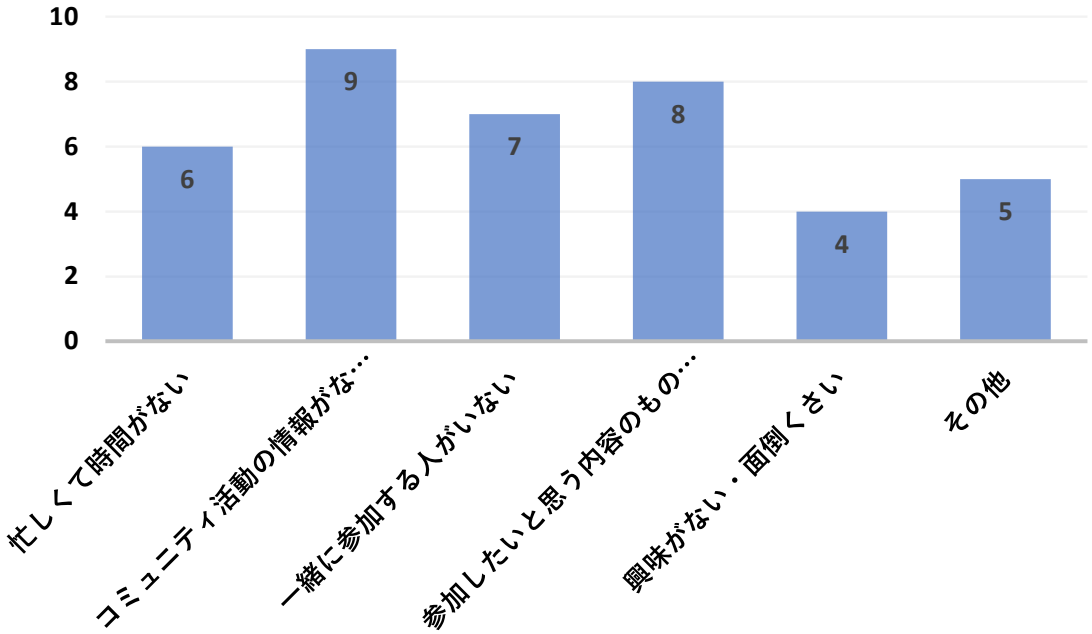
n=90人

問 11. あなたが参加する地域のコミュニティ活動はどのようなものですか。(問 10 で「1. よく参加している　または　2. 時々参加する」と回答された方 67 人)

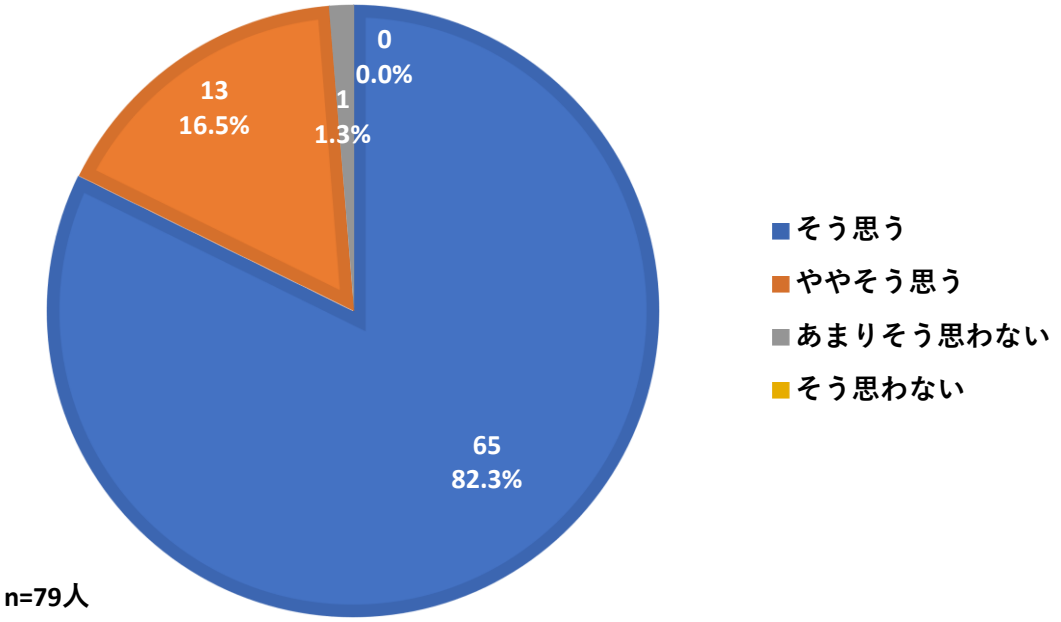


]

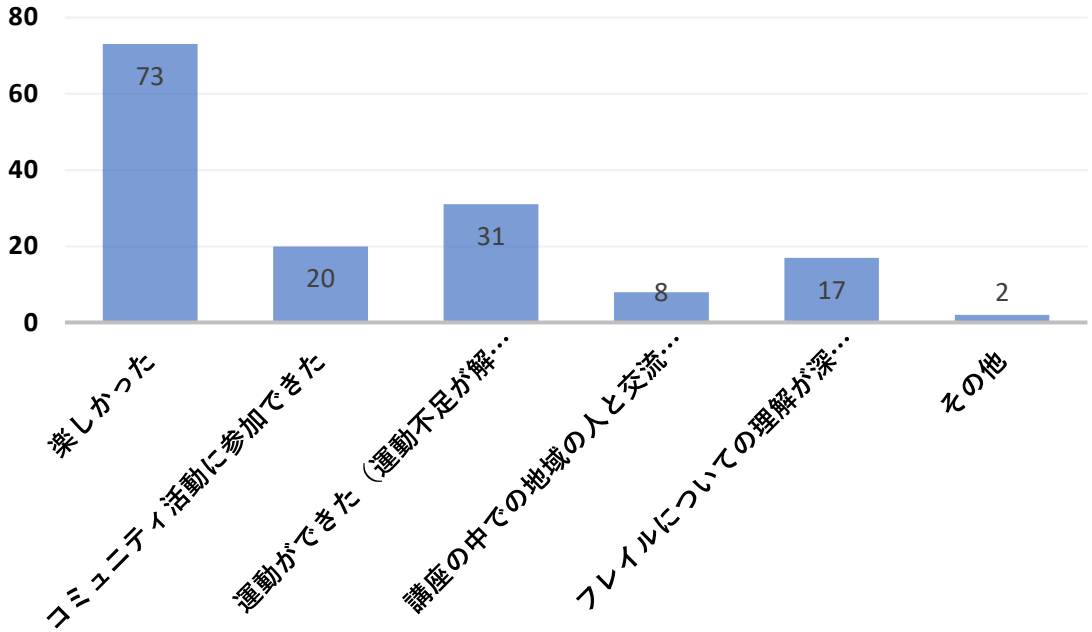
問 12. あなたが地域のコミュニティ活動に参加しない理由は何ですか。(問 10 で「3. ほとんど参加したことがない　または　4. まったく参加したことがない」と回答された方 23 人)



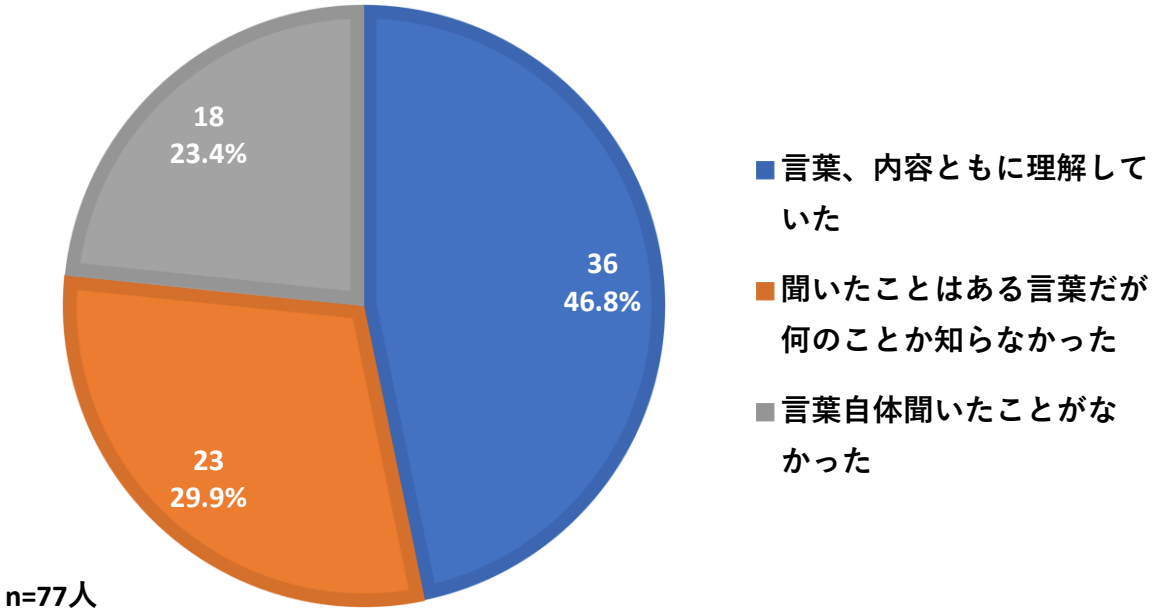
問 13. 今回本講座に参加して良かったと思いますか。



問 14. 本講座の良かった点をお答えください。（問 13 で「1. そう思う　または　2. ややそう思う」と回答された方 78 人）

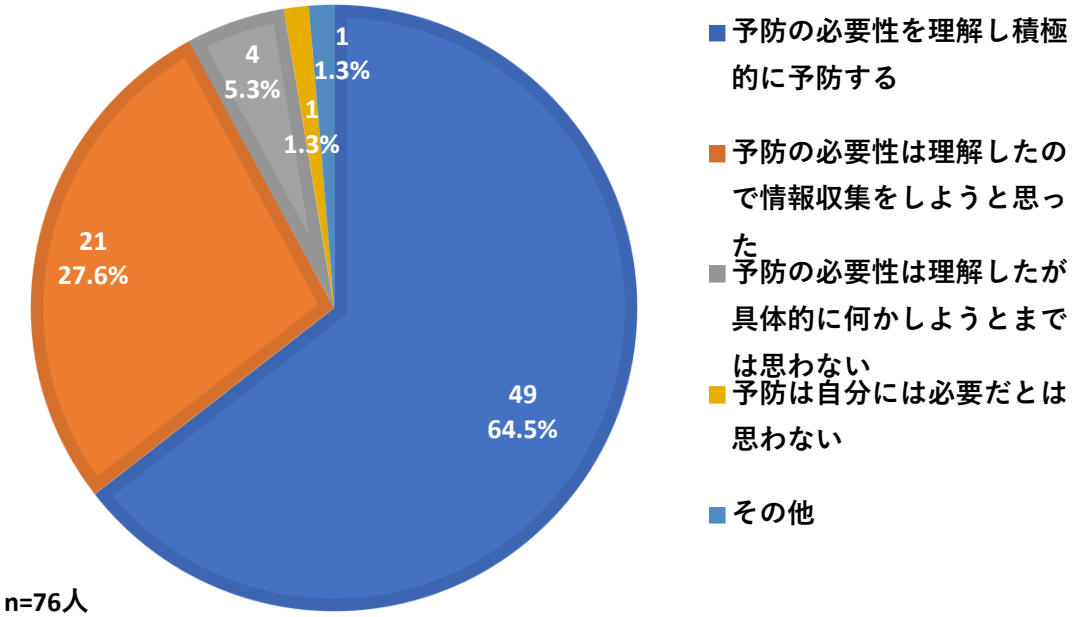


問 15. あなたは本講座の参加前からフレイルについて知っていましたか。



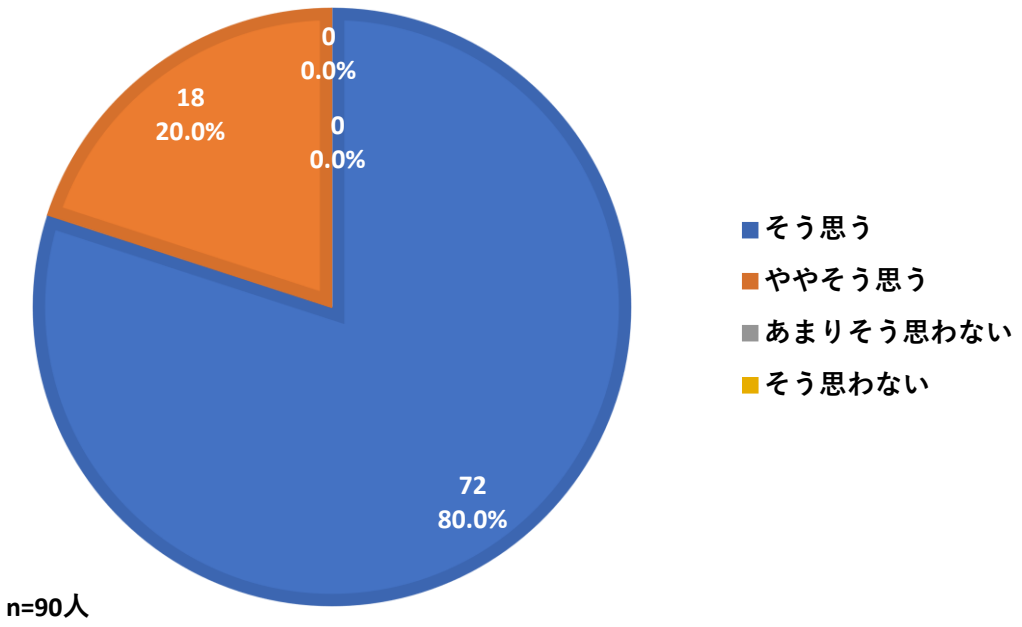
n=77人

問 16. あなたは本講座に参加してフレイルについてどう思いましたか。



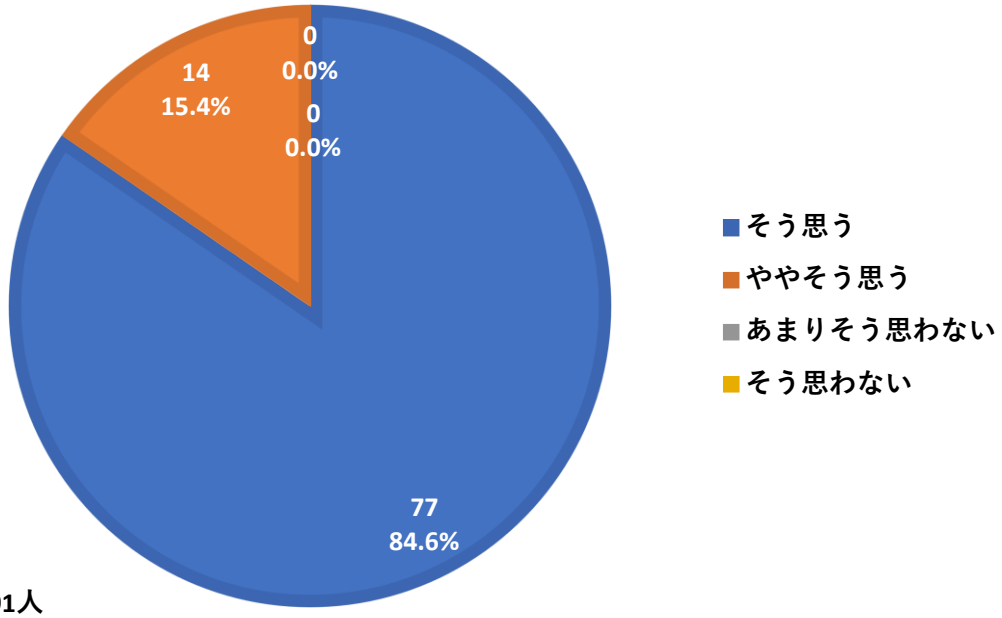
n=76人

問 17. 本講座は、地域の皆さんにコミュニティ活動の中で運動・スポーツを楽しんでいただくために実施しました。このような機会がご自身の運動不足の解消や健康増進に役立つと思いますか。



n=90人

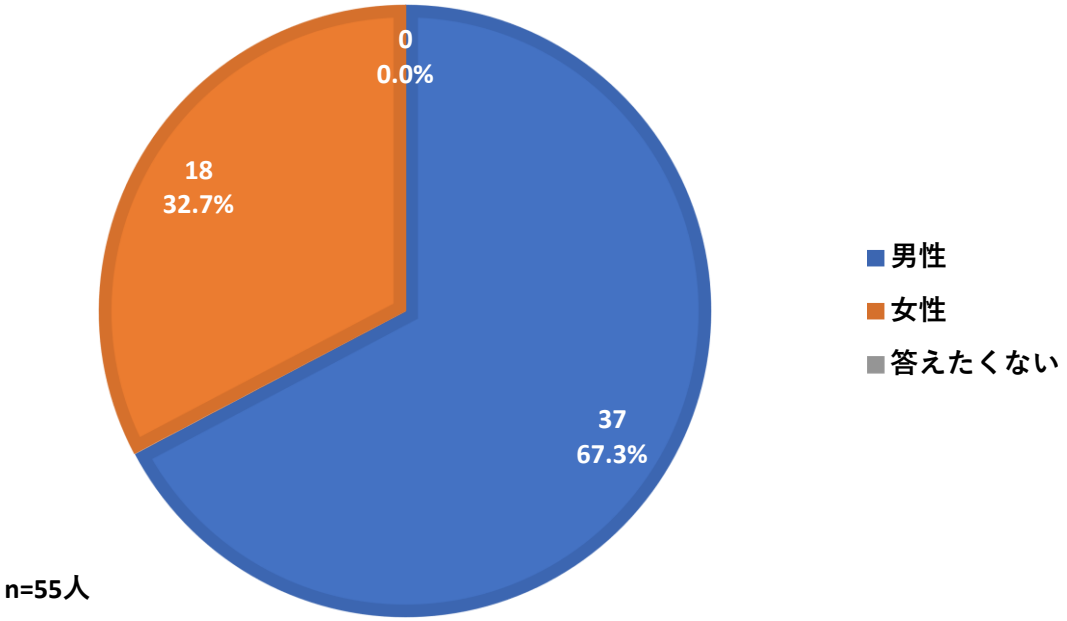
問 18. 今後もこのようなスポーツを通じたコミュニティ活動（イベント）がある場合は、参加したいと思いますか。



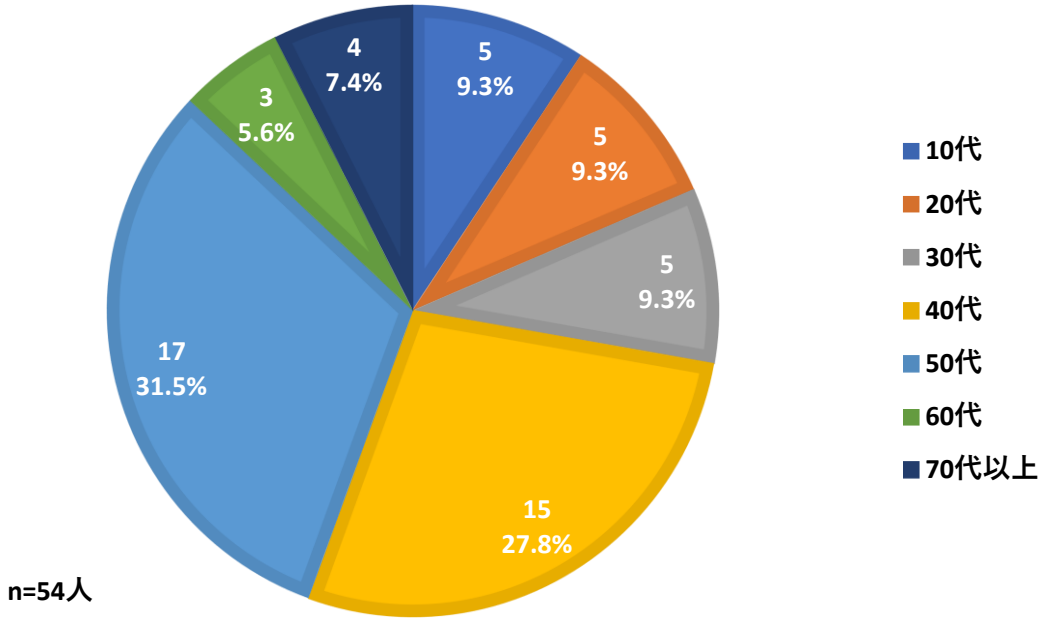
n=91人

（３） SDGs ウォークイベント参加者アンケート調査結果

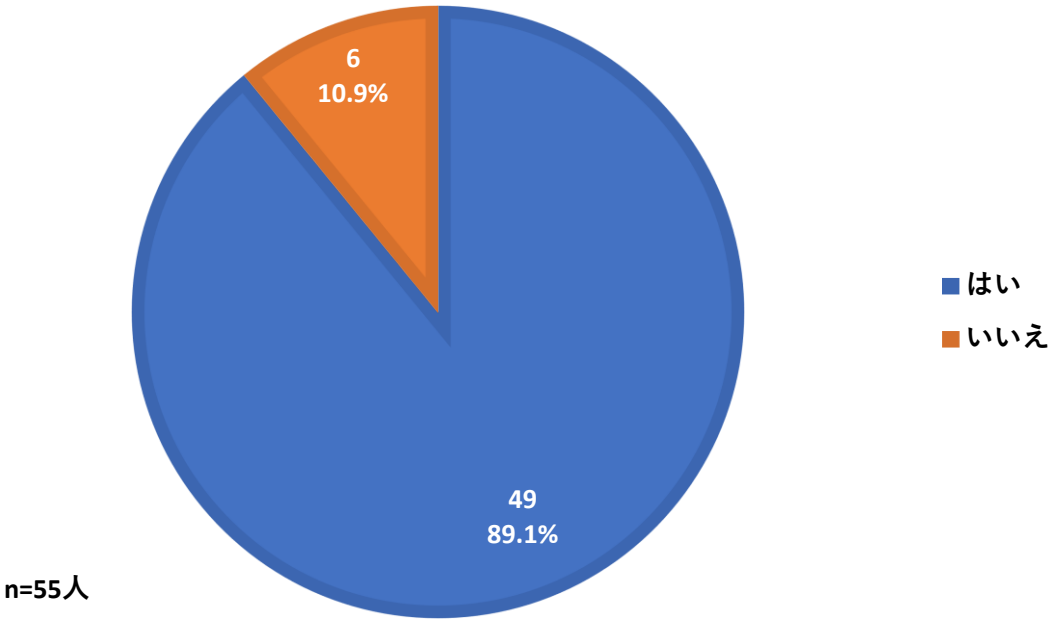
問 1. あなたの性別を教えてください。



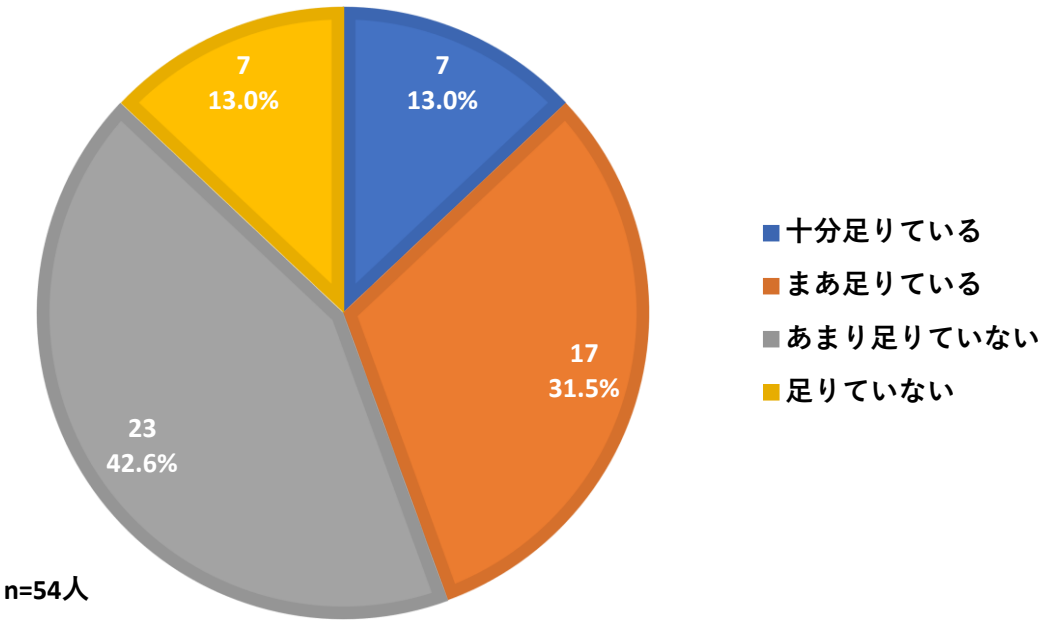
問 2. あなたの年代を教えてください。



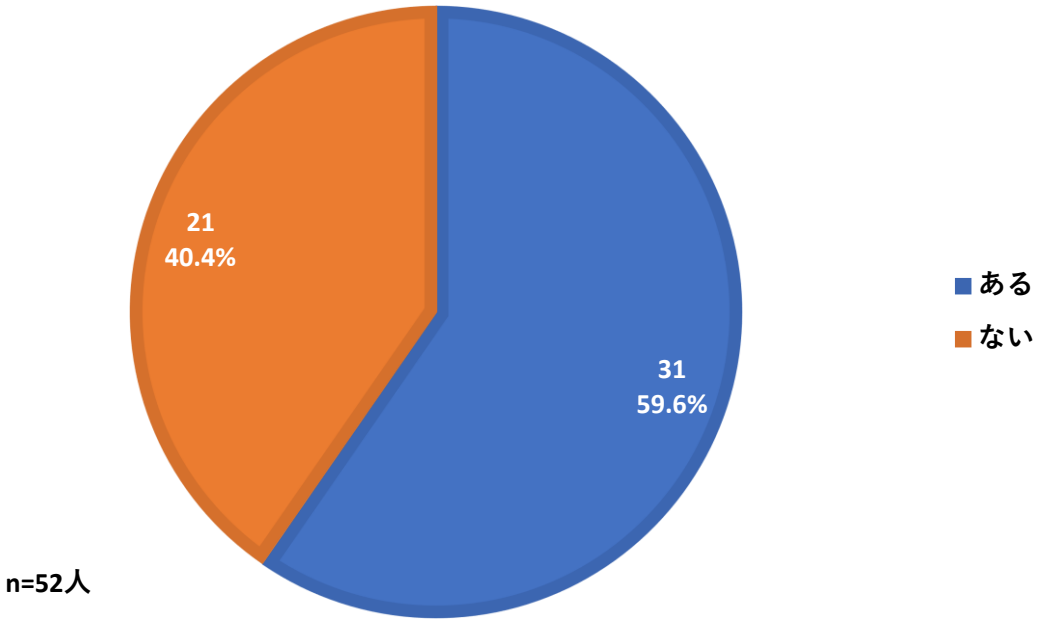
問 3. あなたはカラダを動かすことが好きですか。



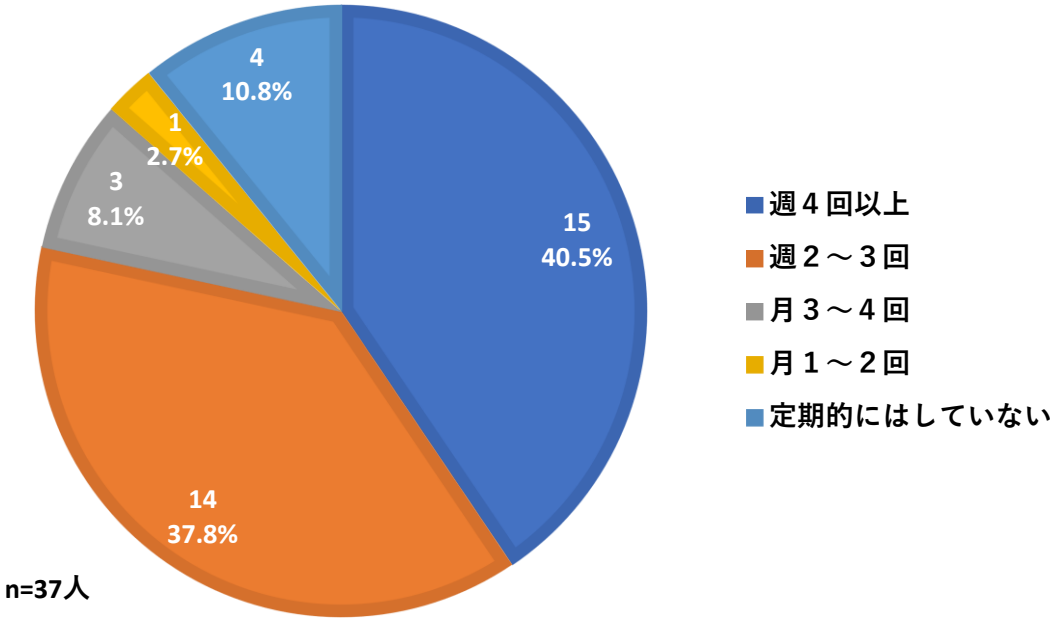
問 4. あなたの日頃の活動（歩数などの運動量）は、足りていると思いますか。



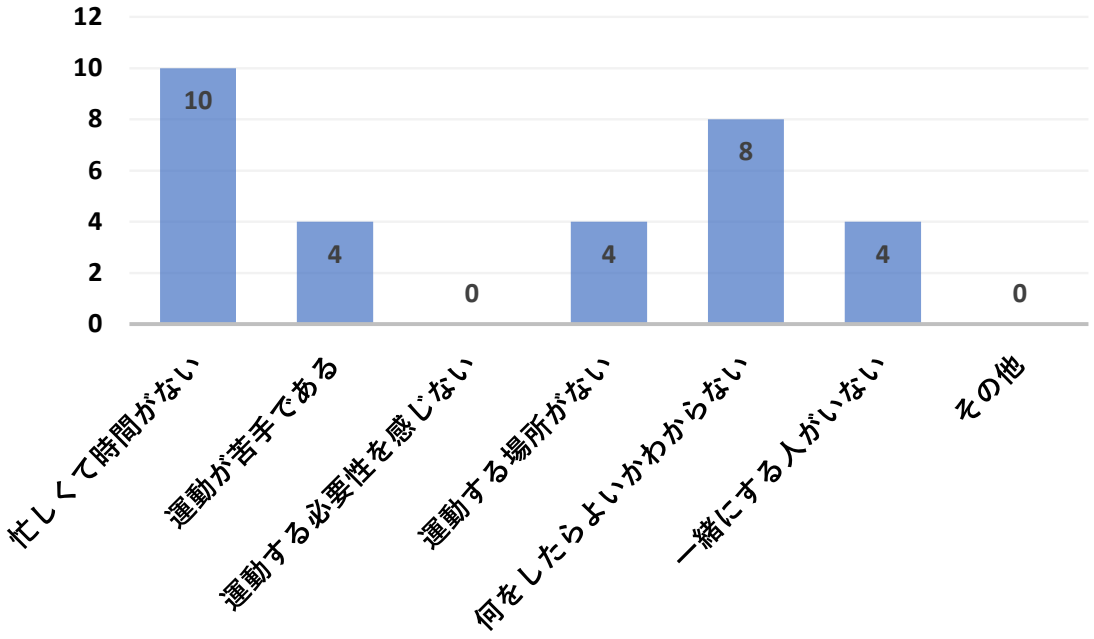
問 5．あなたは、運動をすることがありますか。



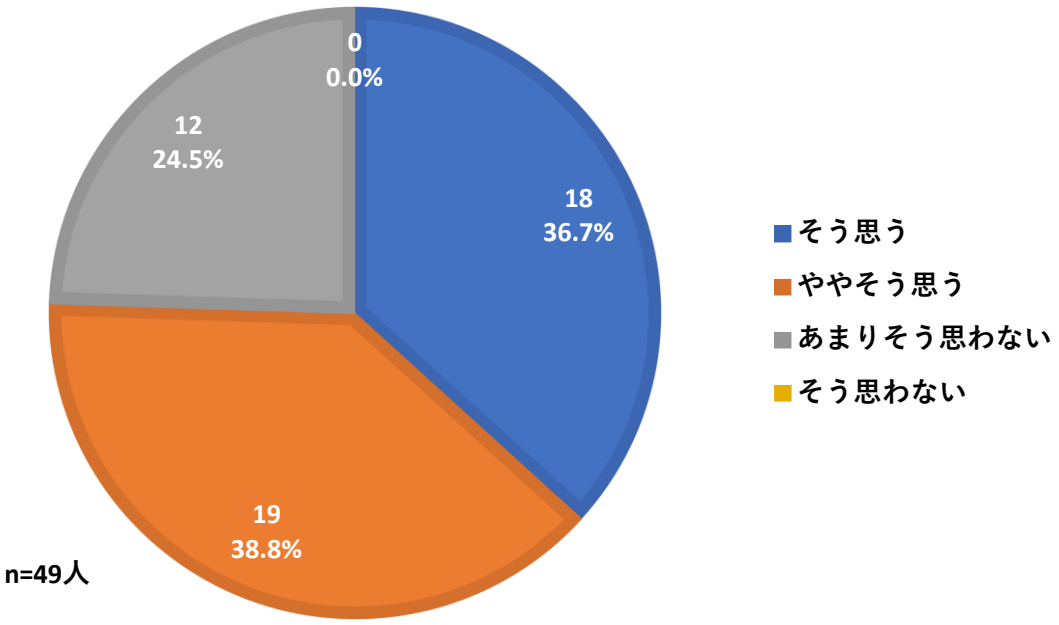
問 6．あなたが運動をする頻度は平均するとどの程度ですか。（問 5 で「１．ある」と回答された方）



問 7．あなたが運動をしない理由は何ですか。（問 5 で「２．ない」と回答された方 21 人）

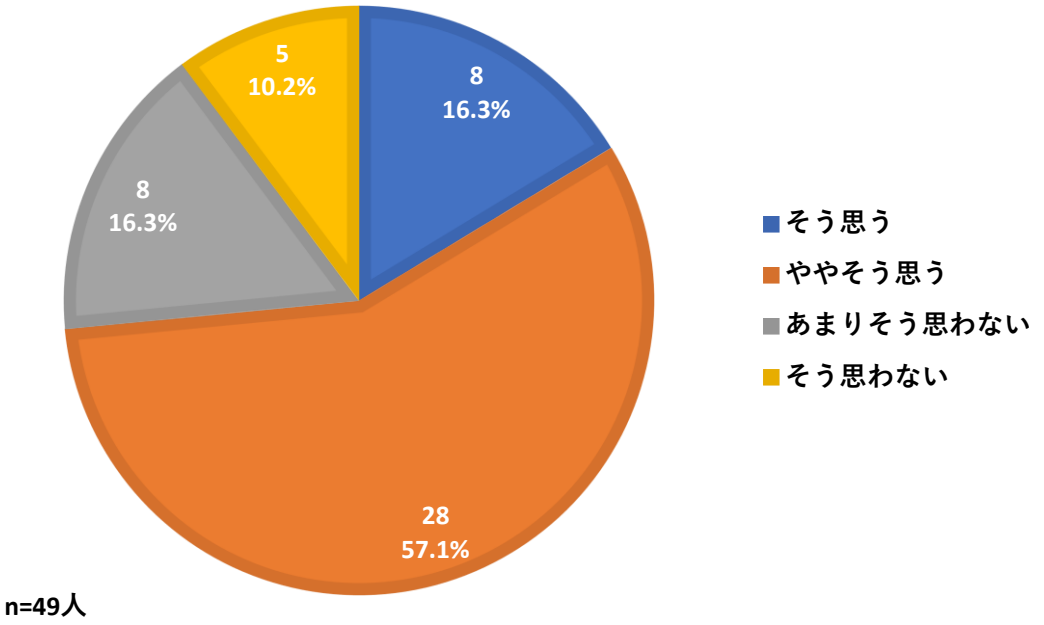


問 8．新型コロナウィルス感染症の拡大以降、外出自粛など日常生活に変化が出ていると思いますが、これにより、あなたがカラダを動かす機会は以前よりも減っていると思いますか。

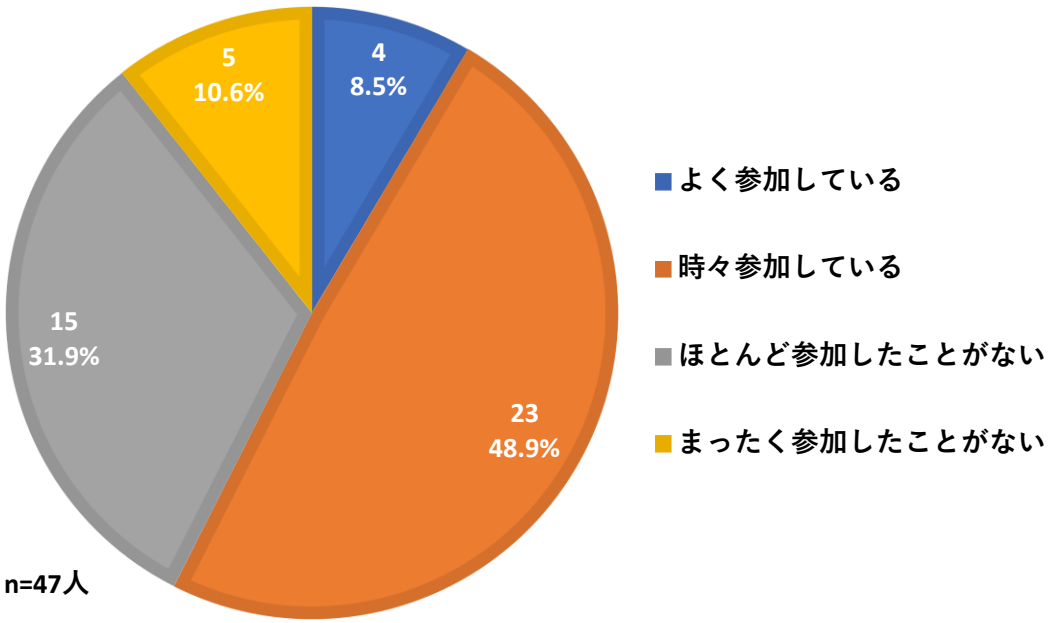


※このアンケートでは、町内会行事、地域のボランティア・サークル活動、自治体や地元企業が主催する地域イベントなどをコミュニティ活動としています。

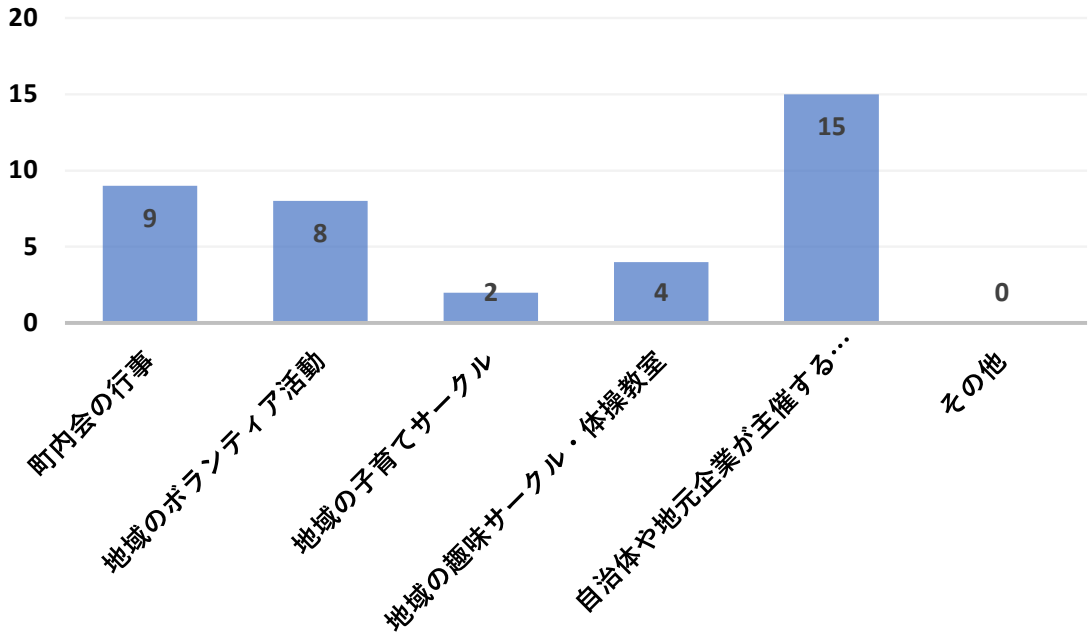
問 9. あなたは、地域のコミュニティ活動に関心がありますか。



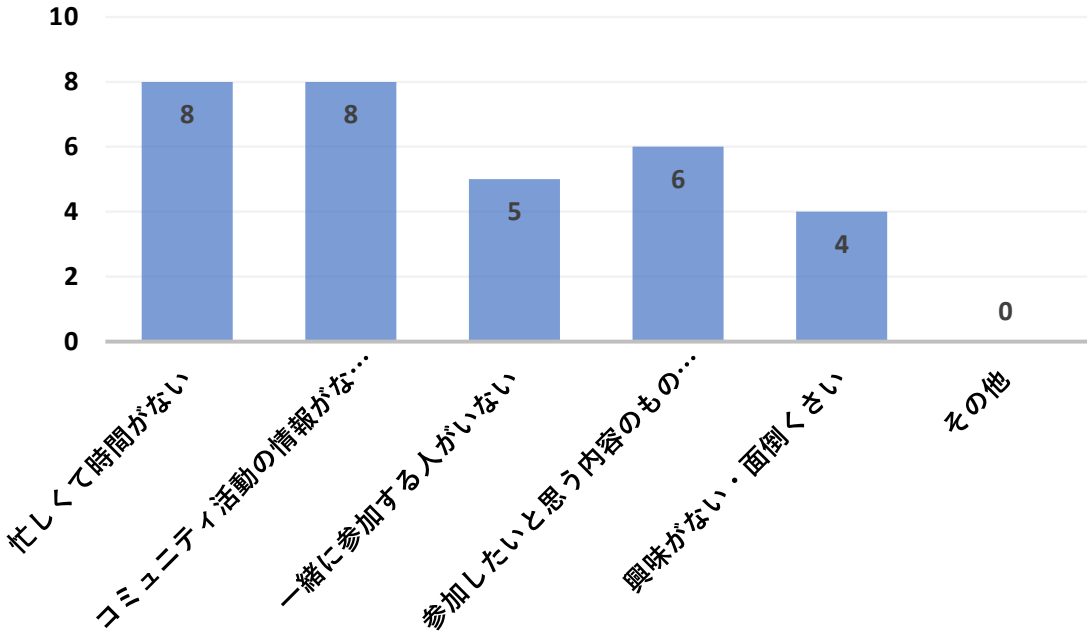
問 10. あなたは、地域のコミュニティ活動に参加していますか。



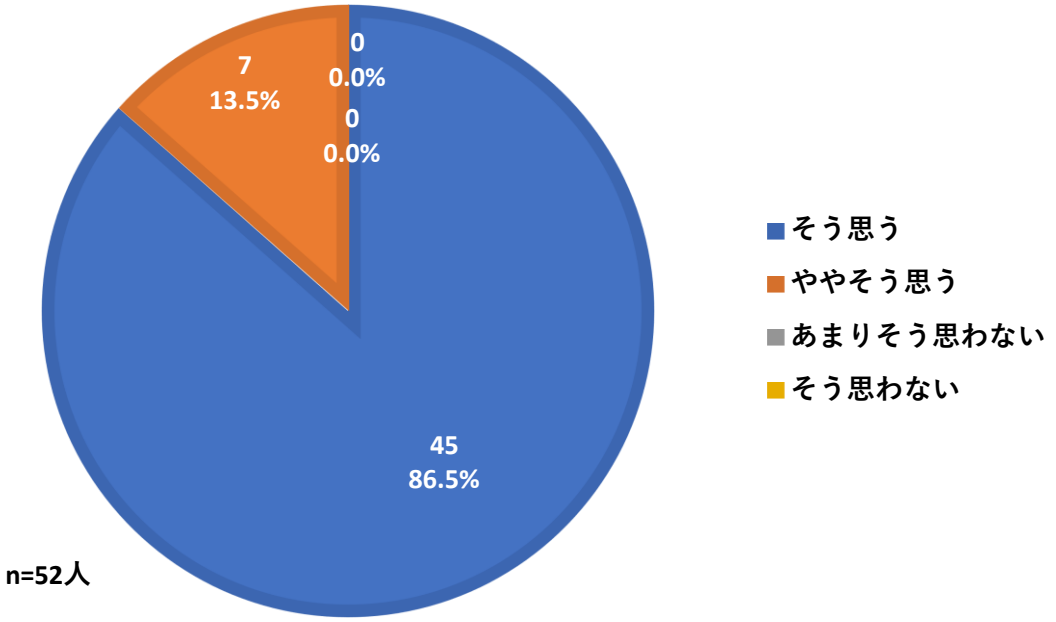
問 11. あなたが参加する地域のコミュニティ活動はどのようなものですか。(問 10 で「1. よく参加している　または　2. 時々参加する」と回答された方 27 人)



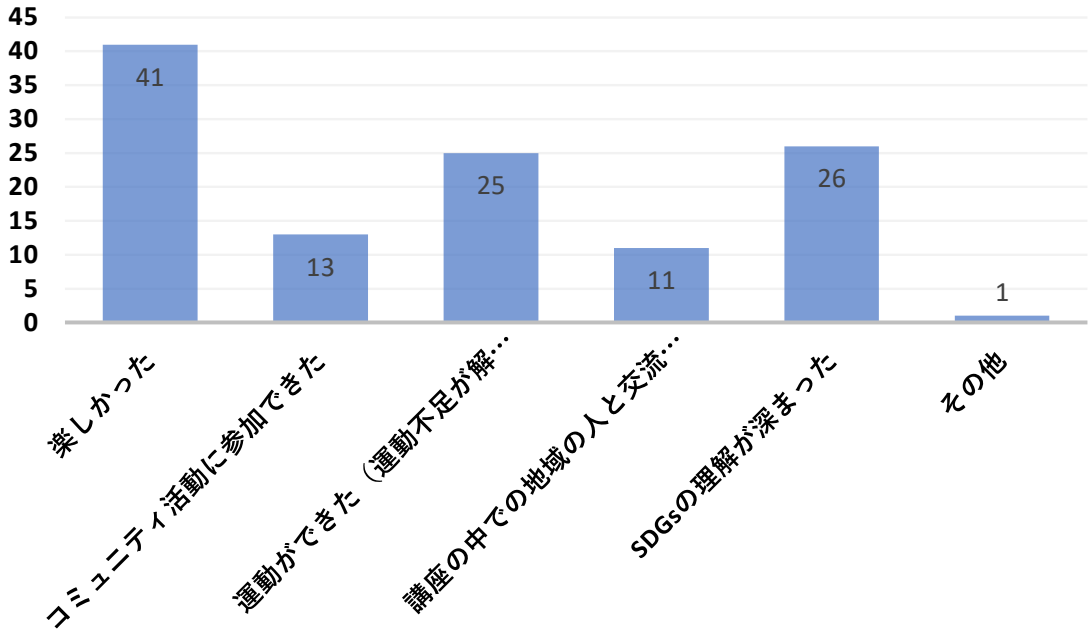
問 12. あなたが地域のコミュニティ活動に参加しない理由は何ですか。(問 10 で「3. ほとんど参加したことがない　または　4. まったく参加したことがない」と回答された方 20 人)



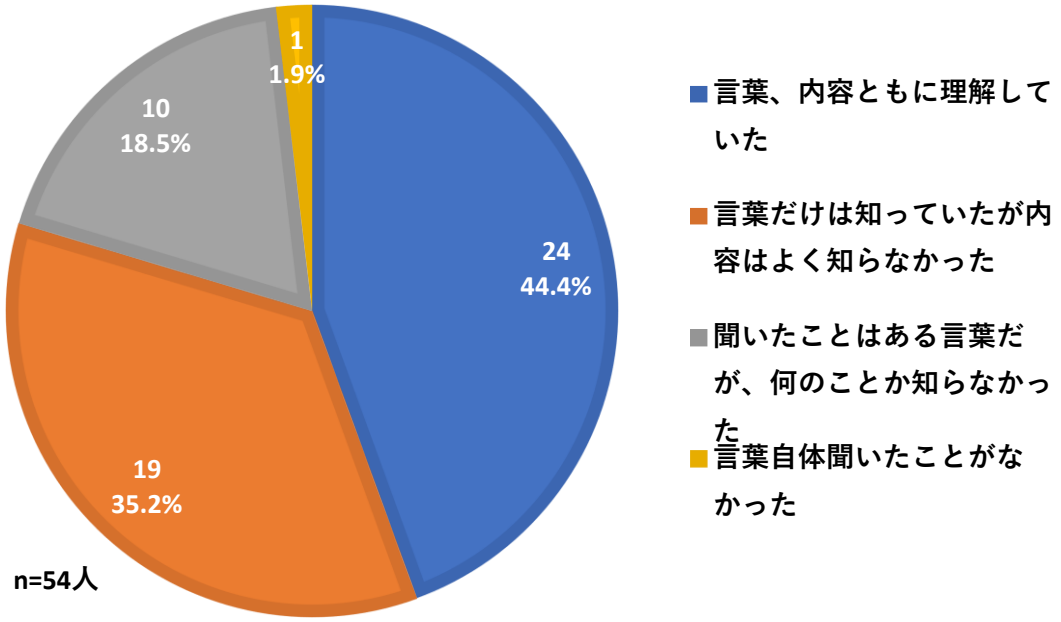
問 13. 今回ウォークイベントに参加して良かったと思いますか。



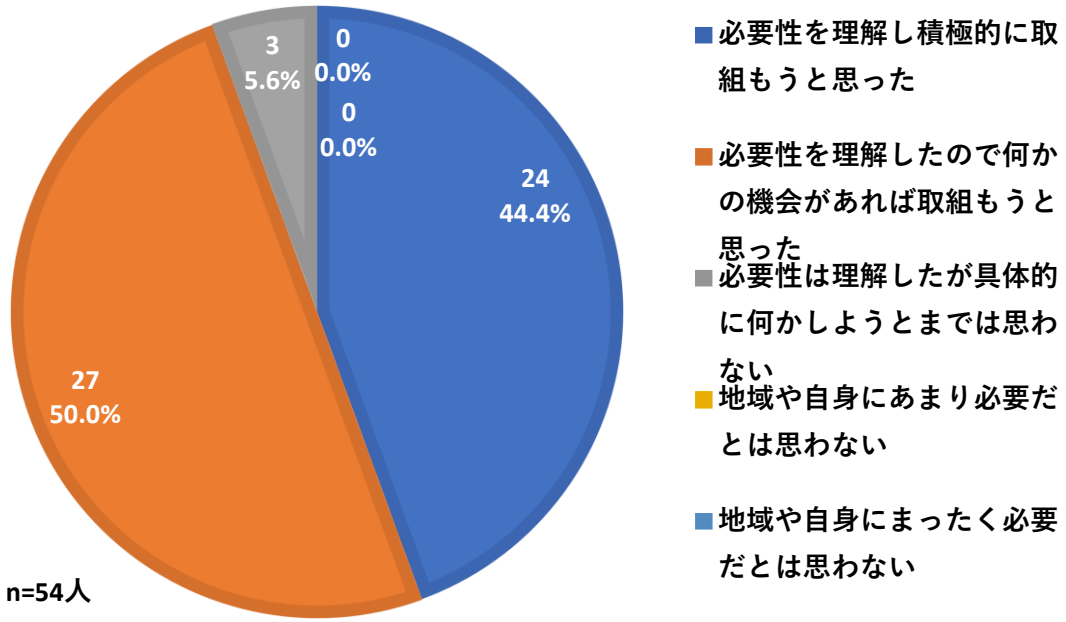
問 14. ウォークイベントの良かった点をお答えください。（問 13 で「1. そう思う　または 2. ややそう思う」と回答された方 52 人）



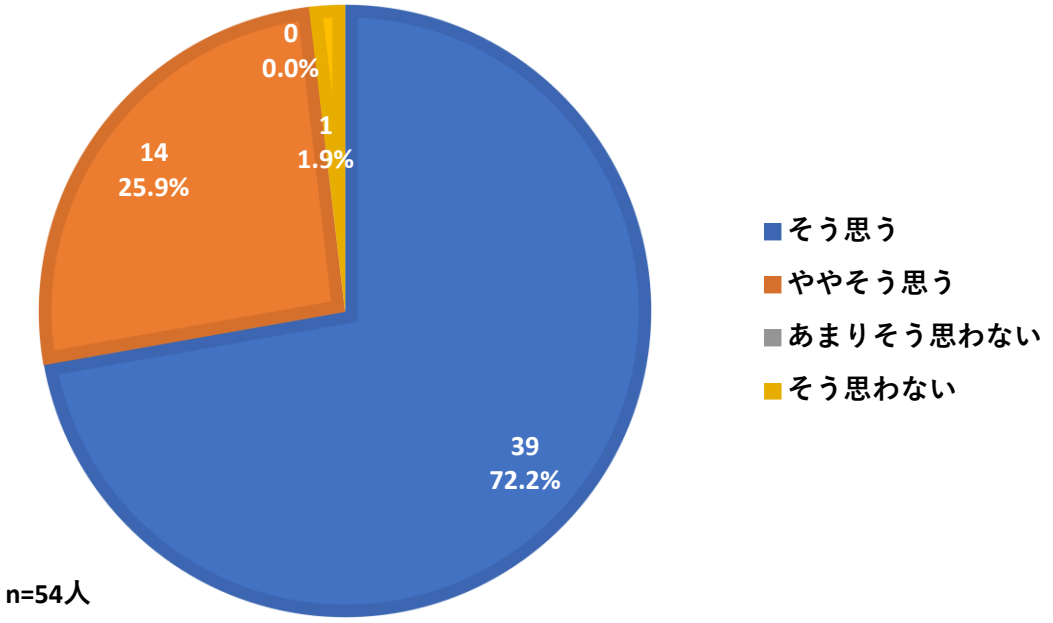
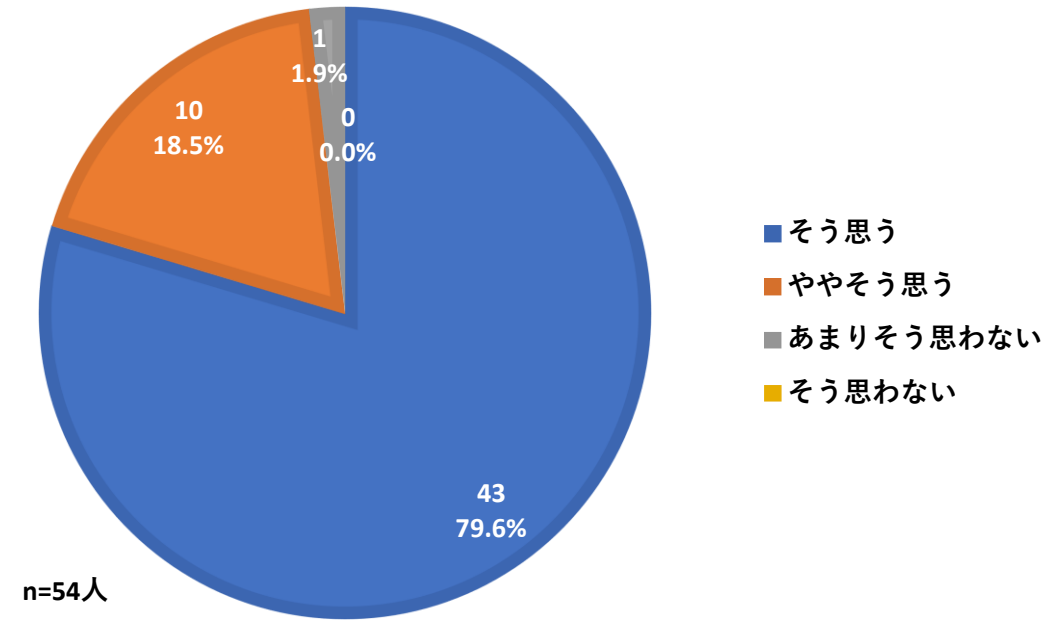
問 15. あなたはウォークイベントの参加前から SDGs を知っていましたか。



問 16. あなたはウォークイベントに参加して SDGs についてどう思いましたか。



問 17. ウォークイベントは、地域の皆さんにコミュニティ活動の中で運動・スポーツを楽しんでいただくために実施しました。このような機会がご自身の運動不足の解消や健康増進に役立つと思いますか。



問 18. 今後もこのようなスポーツを通じたコミュニティ活動（イベント）がある場合は、参加したいと思いますか。